

## 第1 事務局（法人本部）

### I 事務局（総務課・キャリア支援課）

#### 1 概況

全国的な傾向である福祉業界の人材不足や施設利用者の減少により、ここ数年減収が続いており、法人として厳しい経営状況となっている。これに対して経営基盤の強化を図ると同時に、人材確保等の対応に重点的に取り組む法人経営を行ってきた。

人材不足については、人材確保のみならず、育成、定着対策も強化し、職場環境改善の取組を行った。また、財政面と人材定着に関わる給与制度については、新しい給与制度を確立し、令和2年度からの実施に繋げた。

令和元年度で終了する中期計画については新たに基本計画を検討し、令和2年度からの経営方針の道筋を立て、今までの厳しい環境を踏まえた上で、今後具体的に取り組む新たな計画を策定した。

#### 2 重点事項の実施状況

##### (1) 事務局総務課

###### ① 経営改革の推進

平成31年度当初予算段階では、法人全体の収支差額は約40,000千円の見込みであり、前年度当初予算より約20,000千円増額ではあるものの、人材不足や利用者の減により、引き続き厳しい経営が予想された。

年度内においては、八甲学園の体制見直しによる減収、すこやか苑の利用者数減に伴う減収が顕著であったが、暖冬による燃料費や除雪費の減、新型コロナウイルス感染症による行事の減等により支出が抑えられたため、決算額としては約47,000千円の収支差額だった。ただ、今後も環境の変化を見極めながら、楽観視せず経営状況を見定める必要がある。

施設整備については、「青森県すこやか福祉事業団中期計画」に基づき、今後の施設整備のために必要な積立額（25,000千円）を毎年度積み立てていく試算となっている。前年度は収支差額が厳しく積立てを実施できなかったが、今年度は施設整備28,500千円（うち安生園3,500千円）、その他修繕についても5,000千円の積立を行うことができた。

今後も各事業所の経営状況を把握し、事業所と協働して改善策を検討し、経営改善に取り組むものである。

###### ② 給与関係の改革

給与関係については、外部有識者を加えた経営会議にて定期的に検討を進めた結果、新給与制度が令和2年度から施行される運びとなった。

このうち、給料表については、現行給料表の課題を是正した「頑張った人が正当に評価される給料表」を新たに作成し、そのほか業務の実態に沿った「業務手当」や「資格手当」等、新たな手当を複数創設した。

また「同一労働同一賃金制度」に対応するべく、フルタイムの非正規職員の名称を「準職員」に統一し、勤務年数に応じた給料の増額や、扶養手当、住居手当支給の拡充を図った。

###### ③ 情報発信の強化

人材確保における法人PRのツールとして、インターネットでの情報発信が必須であり、前年度に引き続き情報通信の専門家を活用して、法人ホームページのあり方を見直した。法人ホームページが人材確保につながるように、ホームページの閲覧ページの検索解析や、スマホで手軽に閲覧できるスマホ版ホームページを開設した。また、実際に就職活動を行う大学生のモニターに協力を得て、ホームページの使いやすさを改善した。

#### ④ その他

平成29年度より社会福祉法人に対しての会計監査人設置が義務化され、現段階では収益30億円を超える法人又は負債60億円を超える法人が対象となっている。

当初、当事業団が該当となる収益10億円以上の法人は、令和3年度からこの対象となる予定であったが、その後時期未定の延期となったため、当面は今後の情報を収集しながら、対応策を検討する。

「青森県すこやか福祉事業団中期計画」については、令和元年度が5年計画の最終年度となっており、今年度は検討委員会を設置し、法人の今後の経営方針を定めた「青森県すこやか福祉事業団基本計画」を策定した。新たな基本計画の期間は3年とし、年々変化する社会情勢に対応し、今後より具体的に経営状況を把握できるものとした。

### (2) 事務局キャリア支援課

#### ① 人材確保

あらゆる産業で労働力の確保が難しくなっている中、今年度は当事業団でも人材確保が非常に困難な状況だった。これまでは、将来の組織運営を担う人材の確保を目的に、主に新卒者採用に力を入れてきたが、今年度は新卒者のほか、既卒者や高齢者の採用も進め、多様な人材確保に努めた。

採用者を獲得するための企業説明会は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年2月と3月に相次いで中止となったが、学校主催、関係団体主催の会など計10回参加し、93人のブース訪問者（1回当たりの平均訪問者数は9.3人）があった。

採用試験については、定例で実施している職員採用試験（次年度新採用者）に加え、年度途中で正規職員採用を行う一般公募の採用試験も新たに開始した。今年度の一般公募試験の実施回数は11回で（次年度新採用試験4回、年度中途の補充のための採用試験が7回）、応募者数は23人、合格者数は12人だった。

法人内の非正規職員を対象とした内部登用試験については、12人の応募があり5人が正規職員へ登用となった。

#### ■一般公募試験の実施状況

(単位:人)

区分	試験種別	応募者数	合格者数	備考
定例実施の 採用試験	一次募集	5	3	R1. 5. 8、6. 1 実施
	二次募集	3	1	R1. 9. 21、10. 5 実施
	三次募集	2	1	R1. 11. 30、12. 14 実施
	四次募集	3	0	R2. 2. 22、3. 7 実施
年度中途の 職員補充の ための試験	採用試験	1	1	しらかば寮支援員(H31. 4. 27 実施)
		2	1	八甲学園事務員(R1. 5. 18 実施)
		1	1	八甲学園栄養士(R1. 7. 23 実施)

		1	1	すこやか苑支援員(R1. 9. 13 実施)
		1	1	すこやか苑看護師(R1. 10. 16 実施)
		3	1	八甲学園支援員(R1. 11. 20 実施)
		1	1	しらかば寮支援員(R1. 11. 20 実施)
合 計		23	12	

#### ■内部登用試験の実施状況

(単位:人)

試験種別	応募者数	合格者数	備 考
内部登用	12	5	R1. 11. 7、11. 13 実施

#### ② 人材育成

青森県すこやか福祉事業団人材育成計画に基づき、新任職員研修、階層別研修、専門分野別研修など、カテゴリーに応じた研修を計画的に開催し、職員の資質向上に努めた。また、新任職員に対しては「新任職員育成研修プログラム」による人材育成を推進した。法人で実施した研修については、従来の「座学」を中心とした研修から「グループワーク」による研修を増やし、参加者自らが考えることでより効果的な研修となるよう努めた。

実績については、別紙1「令和元年度法人内研修実施状況」(P9～P10)参照。

#### ③ 職場環境改善

平成29年8月に認証された「あおもり働き方改革推進企業」について、令和元年度内に有効期間満了となるため、認証更新を目指して早い段階から取組みを進めた。その結果、これまでの取組状況などが評価され、認証事業所として更新することが出来た。新たな認証期間は、令和元年8月9日から令和3年8月8日までの3年間となっている。

メンタル不調を始めとした職員の私傷病による休職及び復職に関する取扱いを定めた「傷病による職員の休職及び復職に関する規程」を整備した。従来は傷病からの復職に向けた体制等が整備されておらず、場合によっては離職に至るケースがあったが、これにより、復職に向けて十分にサポートする体制を整備することで、職員が安心して働くことができる仕組み作りができた。

また、各所属で働いている職員が相談しやすい仕組みとして「職場の保健室」制度を整備した。これにより、様々な悩みを抱えて仕事をしている職員が、自分の所属だけではなく、事務局や外部相談窓口など広く相談できる「総合的な相談体制」を保障することで、従来よりも安心して悩みを相談して、働きやすい職場づくりに向けた環境改善が期待できることとなった。

#### ④ 人材定着

今年度は新採用者の離職者が非常に多く、26人の新採用者(内部登用者7人含む)のうち6人が退職した。

退職の理由は様々だが、ここ数年間でこれほど多くの新採用者が年度内に退職したケースがなかったことから、今後は新任職員の育成やフォローを行うエルダー制度の見直しや、働きやすい職場環境づくりへの取組などをより一層推進していく。

また、今年度実施したキャリアコンサルタントによる「キャリア面談」については今後も継続し、職員一人ひとりが仕事に対してやりがいを感じ、目標をもって仕

事に臨むことが出来るよう支援する。

### 3 職員の状況

職名	事務局長 (就労さつき所長兼務)	次長 (キャリア支援課長兼務)	総務課長	総務課員 事務員	キャリア支援課 事務員	計(人)
職員数	1	1	1	4	2	9

※理事長、専務理事を除く。

### 4 事業の実施状況

#### (1) 評議員会

事業団定款第9条～14条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第6回評議員会 令和元年6月19日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：評議員7人、監事1人、理事6人、その他8人 ③報告事項 報告第1号：八甲学園における児童支援について 報告第2号：平成30年度事業報告書について ④議決事項 議案第1号：平成30年度貸借対照表、収支計算書及び財産目録(案) 議案第2号：理事の選任(案) 議案第3号：監事の選任(案) 議案第4号：役員報酬規程の一部改正(案)

#### (2) 理事会

事業団定款第23条～27条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第12回理事会 令和元年5月31日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：理事6人、監事2人、その他8人 ③議決事項 議案第1号：平成30年度補正予算（理事長専決分）(案) 議案第2号：平成30年度事業報告書(案) 議案第3号：平成30年度決算書(案) 議案第4号：令和元年度退職給与積立金取崩（理事長専決分）(案) 議案第5号：令和元年度補正予算(案) 議案第6号：役員報酬規程の一部改正(案) 議案第7号：給与規程の一部改正(案) 議案第8号：準職員就業規則の一部改正(案) 議案第9号：臨時職員等就業規則の一部改正(案) 議案第10号：理事の改選(案) 議案第11号：監事の改選(案) 議案第12号：施設長等人事(案) 議案第13号：第6回評議員会の収集事項(案) ④報告事項 報告第1号：平成30年度苦情等受付・解決状況について

<p>第 13 回理事会 令和元年 6 月 19 日</p>	<p>①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 1 人、その他 3 人 ③議決事項 議案第 1 号：理事長の選任について(案)</p>
<p>第 14 回理事会 令和元年 11 月 5 日</p>	<p>①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 7 人 ③議決事項 議案第 1 号：令和元年度補正予算（理事長専決分）（案） 議案第 2 号：令和元年度補正予算(案) 議案第 3 号：職員就業規則の一部改正(案) 議案第 4 号：臨時職員等就業規則の一部改正(案) 議案第 5 号：非常勤ホームヘルパー就業規則の一部改正(案) 議案第 6 号：県民福祉プラザ夜間事務補助員就業規則の一部改正(案) 議案第 7 号：世話人就業規則の一部改正(案) 議案第 8 号：準職員就業規則の一部改正(案) 議案第 9 号：専任当直員設置要領の一部改正(案) 議案第 10 号：人事評価実施要綱の一部改正(案)</p>
<p>第 15 回理事会 令和 2 年 3 月 9 日</p>	<p>①場 所：県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」 ②出席者：理事 6 人、監事 2 人、その他 8 人 ③議決事項 議案第 1 号：令和元年度退職給与積立金取崩(案) 議案第 2 号：令和元年度補正予算(案) 議案第 3 号：令和 2 年度事業計画(案) 議案第 4 号：令和 2 年度当初予算(案) 議案第 5 号：令和 2 年度長寿社会振興センターにおける理事長専決事項 （案） 議案第 6 号：職員就業規則の一部改正(案) 議案第 7 号：職員給与規程の一部改正(案) 議案第 8 号：人事評価実施要綱の一部改正(案) 議案第 9 号：準職員就業規則の全面改正(案) 議案第 10 号：臨時職員等就業規則の廃止(案) 議案第 11 号：非常勤職員就業規則の制定(案) 議案第 12 号：世話人就業規則の一部改正(案) 議案第 13 号：非常勤ホームヘルパー就業規則の一部改正(案) 議案第 14 号：県民福祉プラザ夜間事務補助員就業規則の一部改正(案) 議案第 15 号：日々雇用職員就業規則の一部改正(案) 議案第 16 号：専任当直員設置要領の一部改正(案) 議案第 17 号：育児・介護休業等に関する規則の一部改正(案) 議案第 18 号：定年退職者の再雇用に関する規程の一部改正(案) 議案第 19 号：無期雇用転換事務処理要綱の制定(案) 議案第 20 号：セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する要綱の廃 止及びハラスメントの防止等に関する要綱の制定(案) 議案第 21 号：傷病による職員の休職及び復職に関する要綱の制定(案) 議案第 22 号：経理規程の一部改正(案)</p>

	議案第 23 号：基本計画(案) 議案第 24 号：評議員選任・解任委員の委嘱(案) 議案第 25 号：施設長等人事(案) ④報告事項 報告第 1 号：令和元年度監査結果について 報告第 2 号：令和元年度福祉サービスの質の評価実績報告について
--	---

(3) 各種監査・第三者評価

監査種別	実施日
①青森県すこやか福祉事業団監事事前監査	平成 31 年 4 月 23 日
②青森県すこやか福祉事業団監事監査	令和元年 5 月 10 日・13 日
③青森県すこやか福祉事業団内部監査	
・就労サポートセンターさつき	令和元年 9 月 24 日
・なつどまり	令和元年 9 月 27 日
・安生園	令和元年 10 月 1 日
・八甲学園	令和元年 10 月 2 日
・ライフサポートセンターあおば	令和元年 10 月 3 日
・就労サポートセンターはくちょう	令和元年 10 月 4 日
・プラザ内事業所(事務局・プラザ管理室・長寿・発達)	令和元年 10 月 7 日
・すこやか苑	令和元年 10 月 9 日
④青森県県民局監査指導課による指導監査	
・就労サポートセンターさつき	令和元年 7 月 18 日
⑤青森県県民局監査指導課による指導監査(書面)	
・八甲学園	令和元年 9 月
⑥青森市指導監査課による指導監査	
・デイサービスセンターすこやか	令和元年 10 月 11 日
・八甲学園	令和元年 10 月 16 日
・サンハウス	令和元年 10 月 17 日・18 日
⑦青森市指導監査課による指導監査(書面)	
・安生園、すこやか苑	令和 2 年 12 月
⑧青森県社会福祉士会による福祉サービス第三者評価	
・就労サポートセンターはくちょう	令和元年 8 月 21 日
・就労サポートセンターさつき	令和元年 9 月 3 日

(4) 法人内会議・委員会

会議名	内 容
①所属長会議 (9 回開催)	各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。
②経営会議 (11 回開催)	新給与制度実施に向けた検討及び同一労働同一賃金制度に対する待遇改善について検討した。
③総務担当者会議 (3 回開催)	庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。
④栄養士会議 (2 回開催)	各所属栄養士の協力体制の構築、資質向上及び所属での現状課題の検討や情報共有を行った。

⑤人材確保・育成委員会（2回開催）	事業団の人材育成計画についての検討や、エルダー制度の見直しなどの取組みを行った
⑥職場環境改善委員会（2回開催）	法人内の職場環境について、職場内の問題点の改善や私傷病等からの復職支援制度、職場内の保健室制度について検討した。
⑦監査委員会（2回開催）	法人内の内部牽制の強化と、法定監査受検に対応できる人材の育成を目的に開催され、委員会形式のほか、サービス種別（障害福祉、高齢者福祉）や地域（青森市、平内町）、分野（処遇、経理、運営管理）ごとに「部会」形式でも実施した。
⑧基本計画策定委員会（3回開催）	今後の法人の運営方針や経営目標を新たに設定する「青森県すこやか福祉事業団基本計画」について検討、策定した。
⑨福祉サービス質の評価向上推進委員会（2回開催）	法人が提供している福祉サービスの自己評価を実施し、課題点などを確認して是正を図り、提供するサービスの質と職員の資質の向上を図った。
⑩環境整備委員会（都度実施）	各施設の所有地の環境整備やしいたけ栽培用の原木の伐採、稲作支援等を実施した。

#### （5）職員の福利厚生

非正規職員も含め（一部を除く）全職員を対象としてソウェルクラブへ加入し、福利厚生の充実を図った。

また法人認定のクラブ活動に対する助成金支援制度を実施した。

#### （6）社会福祉事業団関連会議等

会議名	実施日	場 所	出席者
①ブロック事業団連絡協議会 事務局長会議	令和元年 7月4日～5日	福島県西郷村 「東京第一ホテル新白河」	1人
②第1回ブロック事業団 連絡協議会	令和元年 7月18日～19日	青森市 「ラ・プラス青い森」	事務局 全員参加
③全国社会福祉事業団大会	令和元年 11月7日～8日	徳島市 「クレメント徳島」	1人
④ブロック事業団連絡協議会 職員研修Ⅰ	令和元年 11月21日～22日	札幌市 「ライフオート札幌」	2人
⑤ブロック事業団連絡協議会 視察会	令和元年 11月21日～22日	伊達市 「だて地域生活支援センター」	2人
⑥第2回ブロック事業団 連絡協議会・職員研修Ⅱ	令和2年 2月20日～21日	盛岡市 「ホテルトホポリタン盛岡」	2人

## 5 研修の参加状況

### （1）外部研修

研修名	実施日	場 所	出席者
①決算実務セミナー	平成31年4月17日	青森市 「県民福祉プラザ」	1人
②全国経営協事務担当者 フォローアップセミナー	平成31年4月24日	仙台市 「ガーデンシティ仙台」	1人

③理事・監事改選実務研修	令和元年5月13日	東京都 「日本経営協会」	1人
④青森県経営協理事長・役員研修会	令和元年5月17日	青森市 「ホテル青森」	1人
⑤指導監査対策セミナー	令和元年6月25日	青森市 「リンクモア平安閣市民ホール」	1人
⑥人材確保戦略セミナー	令和元年6月26日	青森市 「ホテル青森」	1人
⑦介護職員処遇改善加算取得セミナー	令和元年7月5日	青森市 「リンクステーションホール青森」	2人
⑧消費税改正研修会	令和元年7月10日	青森市 「県民福祉プラザ」	1人
⑨同一労働同一賃金説明会	令和元年7月11日	青森市 「アピオあおもり」	2人
⑩全国経営協青年会基礎講座	令和元年 7月24日～25日	東京都 「TIME24ビル」	1人
⑪全事協社会福祉法人会計に関する研修	令和元年7月26日	東京都 「全国都市会館」	2人
⑫特定処遇改善加算取得推進セミナー	令和元年7月26日	青森市 「リンクモア平安閣市民ホール」	1人
⑬福祉人材確保支援セミナー	令和元年8月27日	青森市 「県民福祉プラザ」	2人
⑭インターンシップ受入力向上セミナー	令和元年9月2日	青森市 「アウガ」	1人
⑮危機管理広報の実務	令和元年 9月24日～25日	東京都 「日本経営協会」	1人
⑯福祉事業者のための働き方改革セミナー	令和元年10月15日	青森市 「リンクステーションホール青森」	1人
⑰ノーリフティングケア研修(管理職編)	令和元年11月19日	青森市 「県民福祉プラザ」	2人
⑱人権啓発推進員研修会	令和元年11月26日	青森市 「アピオあおもり」	1人
⑲ハラスメント対策説明会	令和元年12月5日	青森市 「アピオあおもり」	2人
⑳介護職員処遇改善加算取得セミナー	令和元年12月6日	青森市 「県民福祉プラザ」	1人
㉑都道府県経営協セミナー	令和元年12月12日	青森市 「青森国際ホテル」	1人
㉒福祉人材確保支援セミナー	令和2年2月10日	青森市 「アピオあおもり」	1人
㉓福祉機能強化支援セミナー	令和2年2月25日	青森市 「ホテルクラウンパレス青森」	1人

(2) 法人内研修

詳細については、別紙1「令和元年度法人内研修実施状況」(P9～P10)参照。



(別紙1)「令和元年度法人内研修実施状況」

月	日	曜日	研 修	講 師	参加者数(人)
4	9	火	新任職員研修(第1回目)	理事長、専務理事、事務局長 町田センター長	8
	22	月	看護技術基礎研修	鹿内看護師、倉内副主任	8
	24	水	看護技術基礎研修	鹿内看護師、倉内副主任	6
	25	木	看護技術基礎研修	鹿内看護師、倉内副主任	8
	26	金	虐待防止研修(特別編)	青森大学/藤林正雄氏	29
5	8	水	交通安全研修(前期)	(株)ムジコクリエイト	17
	9	木		猪俣直仁氏	20
	20	月	エルダー研修(サボセンさつき)	渋谷推進監	
	14	火	ハラスメント予防研修	産業保健総合支援センター	22
	21	火		斎藤啓一氏	15
	22	水	初級職員研修(午前)	セミナー東北/鎌田昌子氏☑	22
			初級職員研修(午前) キャリア事前	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	26
			初級職員研修(午後) キャリア事前	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	7
			初級職員研修(午後)	セミナー東北/鎌田昌子氏☑	8
	23	木	初級職員研修(午前)	セミナー東北/鎌田昌子氏☑	15
			初級職員研修(午前) キャリア事前	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	18
			初級職員研修(午後) キャリア事前	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	11
			初級職員研修(午後)	セミナー東北/鎌田昌子氏☑	11
	27	月	エルダー研修(すこやか苑)	渋谷推進監	
			エルダー研修(安生園)		
	28	火	エルダー研修(チャレンジすこやか)	渋谷推進監	
			リスクマネジメント研修(前期)	山谷専務	14
30	木	エルダー研修(なつどまり)	渋谷推進監		
		エルダー研修(八甲学園)			
		エルダー研修(あおば)			
31	金	エルダー研修(サボセンはくちょう)			
7	10	水	新任職員研修(第2回目)	理事長、専務理事、事務局長 前中センター長	6
	31	水	総務担当者研修	福土次長	17
8	20	火	中級職員研修	セミナー東北/大竹辰也氏☑	24
			中級職員研修(キャリア事前)	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	23
	20	火	上級職員研修(キャリア事前)	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	15
			上級職員研修	セミナー東北/吉田 登氏☑	12
9	12	木	メンタルヘルス及び障害(精神)の理解促進研修	芙蓉会病院/村上拓也氏	32
	17	火	個人情報保護に関する研修	沼田法律事務所/沼田徹氏	32
	25	水	女性職員研修	山谷専務、前中センター長	14
	26	木			14

月	日	曜日	研 修	講 師	参加者数(人)
10	2	水	内定者研修 I	理事長、専務理事、事務局長	3
	18	金	女性職員研修 (安生園)	キャリアコンサルタント 石岡百合子氏	17
			女性職員研修 (なつどまり)		12
	21	月	女性職員研修 (八甲学園)		14
31	木	新任職員研修 (第3回目)	理事長、専務理事、事務局長 前中センター長	12	
11	14	木	利用者支援理解促進研修(高齢者)	芙蓉会病院/村上拓也氏	38
	18	月	虐待防止研修	青森大学/船木昭夫氏	30
	19	火	交通安全研修 (後期)	東部自動車学校 田中正義氏	23
			女性職員研修 (なつどまり)	山谷専務、前中センター長	7
	20	水	交通安全研修 (後期)	東部自動車学校 田中正義氏	10
26	火	考課者研修	(株)川原経営総合センター 神林 佑介氏	21	
12	4	水	虐待防止研修	青森大学/船木昭夫氏	31
	16	月	考課者研修	(株)川原経営総合センター 神林 佑介氏	25
1	22	日	新任職員研修	理事長、専務理事、事務局長、法人内講師 (町田センター長予定)	5
2	14	金	内定者研修 I	理事長、専務理事、事務局長	7
			内定者研修 II	事務局次長	10
	15	土	内定者研修 III		8
	19	水	考課者研修	(株)川原経営総合センター 神林 佑介氏	16

※エルダー研修は各所属内で開催したが、勤務の関係で途中で職員の出入り等もあり、人数は把握していない。

## II 県民福祉プラザ管理室

### 1 概況

県民福祉プラザの受託経営事業については、これまでと同様に円滑な貸館運営を実施するとともに、自主事業においては事業内容を精査して実施した。しかし、年度末には新型コロナウイルス感染症の影響で、貸館運営の自粛や自主事業の中止を余儀なくされた。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 県民福祉プラザ受託経営事業（指定管理受託事業）

貸館業務の研修室等使用実績については、別紙2「令和元年度県民福祉プラザ利用状況」（P13）のとおり。

維持管理業務については、新規に研修室用の椅子を50脚購入し、多目的室4Bへ設置した。研修室のテーブルや椅子は経年により劣化しており、今後も計画的に更新を進めていく。

管理業務については、福祉機器業者の協力の下、2階福祉機器展示室コーナーのベッドや車椅子、吊上げリフト、入浴介助機器等を最新の機器に更新した。これにより県内で実施している介護関係研修の際に実際に利用してもらうなど、最新の福祉機器を活用できる環境を整えた。

#### (2) 県民福祉プラザ自主事業

平成30年度から取組を始めた自主事業については、1年目の成果を精査し、内容を見直して実施した。「新春将棋まつり」、「健康教室」等は多くの方に参加していただき盛況であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2、3月に実施予定だった「健康教室」が中止になった。

イベント名	期 間	延べ回数	延べ参加者数	売 上
①健康教室	令和元年7月8日～ 令和2年2月27日	18回	312人	156,000円
②ヨガ教室	令和元年9月5日～ 令和元年10月31日	10回	82人	82,000円
③防災教室	令和2年1月25日	1回	11人	10,500円
④新春将棋まつり	令和2年1月4日	1回	81人	201,500円
⑤エントランスホール出店	令和元年5月1日～ 令和2年2月29日	通年	32件	32,000円
⑥デジタルサイネージ	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	通年	2団体	253,500円
計（6事業）				735,500円

#### (3) 成果目標

項 目	目 標	実 績	達成率	備 考
①有料研修室利用者数(人)	111,000	94,904	85.4%	自主事業除く
②有料研修室利用件数(件)	3,300	3,315	100.0%	〃
③自主事業売り上げ(千円)	910	736	80.8%	参加費・広告料等

### 3 職員の状況

職名	室長	事務員	夜間事務補助員	計(人)
職員数	1	6	2	9

### 4 研修の参加状況

研修名	実施日	場 所	出席者
①パワーポイントでつくる チラシづくりの実践	令和元年6月13日	青森市 「青森県総合社会教育センター」	2人
②社会福祉法人指導監査対 策セミナー	令和元年6月25日	青森市 「リンクモア平安閣市民ホール」	1人
③社会福祉施設職員経理研 修	令和元年6月28日	青森市 「青森県立保健大学」	1人
④福祉機器専門職員研修会	令和元年 7月10日～12日	埼玉県「国立障害者リハビリテ ーションセンター学院」	1人
⑤社会福祉法人会計セミナ ー	令和元年9月4日	青森市 「県民福祉プラザ」	2人
⑥身近な災害対策を知って おこう！	令和2年1月31日	弘前市 「弘前大学大学会館」	1人

(別紙2)「令和元年度県民福祉プラザ利用状況」

No	研修室名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1	県民ホール	利用件数(件)	13	14	20	30	11	19	20	30	17	14	14	6	208
		利用者数(人)	1,630	2,005	3,765	4,330	1,710	2,205	3,055	4,570	2,787	1,525	2,290	290	30,162
2	大研修室	利用件数(件)	20	18	32	28	24	25	30	30	26	15	22	4	274
		利用者数(人)	1,142	910	1,419	1,111	1,066	1,180	1,160	1,474	1,048	651	1,155	200	12,516
3	中研修室	利用件数(件)	23	21	29	32	26	27	33	28	32	20	20	6	297
		利用者数(人)	821	793	1,011	1,130	992	1,050	1,235	1,175	1,062	782	865	205	11,121
4	小研修室	利用件数(件)	37	32	35	33	22	31	32	32	29	20	27	19	349
		利用者数(人)	414	377	411	394	304	385	300	390	445	322	336	231	4,309
5	多目的室4A	利用件数(件)	34	30	34	31	24	29	36	38	30	24	30	15	355
		利用者数(人)	653	685	745	709	490	709	613	809	625	583	598	313	7,532
6	多目的室4B	利用件数(件)	24	22	30	28	20	29	39	29	17	20	17	10	285
		利用者数(人)	664	579	768	769	374	723	1,057	655	510	462	450	205	7,216
7	講師控室1	利用件数(件)	5	4	14	13	12	14	12	8	11	6	8	8	115
		利用者数(人)	21	17	47	36	37	41	33	21	34	26	34	49	396
8	講師控室2	利用件数(件)	5	10	22	12	21	22	25	21	11	7	7	5	168
		利用者数(人)	28	20	42	12	38	26	25	30	11	15	18	16	281
9	多目的室3B	利用件数(件)	17	21	23	20	23	25	33	26	15	17	19	13	252
		利用者数(人)	322	447	319	348	348	420	553	469	236	316	324	196	4,298
10	多目的室3C	利用件数(件)	32	33	34	31	25	29	37	34	29	24	26	27	361
		利用者数(人)	221	227	246	229	221	231	318	279	237	213	223	241	2,886
11	多目的室2A	利用件数(件)	15	20	32	25	22	26	38	26	23	15	18	12	272
		利用者数(人)	608	795	1,041	852	642	834	1,475	828	772	515	485	365	9,212
12	多目的室2B	利用件数(件)	19	25	30	25	23	29	31	24	21	13	17	15	272
		利用者数(人)	335	307	359	363	284	361	417	317	267	144	223	169	3,546
13	調理実習室	利用件数(件)	7	8	12	7	12	9	10	14	9	6	9	4	107
		利用者数(人)	89	96	159	126	145	123	120	192	137	71	127	44	1,429
合 計		利用件数(件)	251	258	347	315	265	314	376	340	270	201	234	144	3,315
		利用者数(人)	6,948	7,258	10,332	10,409	6,651	8,288	10,361	11,209	8,171	5,625	7,128	2,524	94,904

【参 考】

年 度	利用件数	利用人数
平成30年度	3,241	97,459
令和元年度	3,315	94,904
増 減	74	-2,555

## 第2 障害児入所施設八甲学園

### 1 概況

八甲学園の運営にあたっては、基本理念のもと、利用者のその有する能力に応じ、すこやかな成長ができるよう、また地域社会の一員として日常生活や社会生活を営むことができるよう、利用者や家族等の思いに寄り添い支援してきた。

令和元年度、八甲学園は開設から60年目を迎えた。今年度の運営にあたっては、良質なサービスを提供するとともに、関係機関や地域、家庭との結びつきを重視した開かれた施設づくりを目指し、多様化する地域福祉ニーズに応じた社会福祉事業の展開を図った。また、安定した経営基盤を築き、より健全な事業運営を目指し各事業の収益性の強化を図った。それに伴い、八甲学園拠点内の収支が前年度と比較し改善された。

改正労働安全衛生法によるストレスチェックを実施し、職員のメンタル不全の早期発見・早期対応や、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の整備に努めた。

### 2 職員の状況

	園長	企画監	課長	主任 支援員	副主任 支援員	支援員	非常勤 支援員	看護師	栄養士	事務員	世話人	運転員 当直員	合計
総務課	1	1						1		3		4	10
こども 支援課			1	1	2	15	2						21
地域支援 第一課			1	2	2	11	2						18
地域支援 第二課			1		3	14	4		1		13		36
合計	1	1	3	3	7	40	8	1	1	3	13	4	85

※1 非常勤職員（専任当直員、運転員）は総務課職員として集計。

※2 嘱託医、産業医及び嘱託職員（心理療法担当）は除く。

### 3 職員研修

年間研修計画（法人内研修や施設内外の研修）に基づいた研修を実施し、職員全体の資質向上及び専門的な知識と支援技術の獲得を図った。

また、利用者の人権・生命を守るために、虐待・権利擁護・コンプライアンス・危機管理（救命救急、防犯、防災等）に関わる研修の充実を図り、職員の人権意識等の向上に努めた。

### 4 行事

#### (1) 年間行事

項目	実施時期 または回数	内容
(1) 生活支援	随時	①社会体験学習 買物・食事・公共施設等（延21回）
	5月2日 5月5日 7月20日	②行事 ・端午の節句 ・花見会/学園庭園(17人) ・学園なつまつり

	8月2日 8月3日 8月9日 9月28日 12月20日 1月6日 1月14日 2月2日 3月1日	・ねぶた観覧 ・夏休み外出①/すたみな太郎 ・夏休み外出②/芦野公園 ・ミニ運動会 ・クリスマス会 ・新年会 ・冬休み外出/すたみな太郎 ・豆まき会 ・ひなまつり会
	4月期 7～8月期 12～1月期 3月期	③家庭実習 ・春季家庭実習（6人） ・夏季家庭実習（7人） ・冬季家庭実習（9人） ・春季家庭実習（0人）
(2) 学卒児支援	年間	①園外活動：歩行訓練・作業活動 ②園内活動：身辺自立・清掃
(3) 就労支援	随時	①学校の実習に協力 実習先訪問、金銭管理指導
(4) 強度行動障害 特別処遇事業	1回/月 3回/月/1人	・スタッフ会議 ・対象児2人にプレイセラピーを実施
(5) 健康管理	随時 24回 2回 12回 4回 1回 2回 1回	①通院 ②精神科嘱託医の検診 ③内科嘱託医の検診 ④身長体重測定 ⑤フッ素塗布 ⑥眼科検診 ⑦歯科検診 ⑧定期健康診断
(6) 防災訓練	12回/年	①避難訓練（火災・地震想定） ②地域防災懇談会（横内市民センター） ③総合避難訓練（前期100人） （地域防災協力隊31人） ④総合避難訓練（後期53人） ⑤非常通報訓練（春） ⑥非常通報訓練（秋）
(7) 研修	随時	①職場内研修・研究発表 ②法人内研修 ③法人外県内研修 ④法人外県外研修
(8) 広報活動	3回/年	①学園だより ②ホームページ ③リーフレット ④市町村訪問

(9) ボランティア	随時	①八甲学園なつまつり
(10) 実習受け入れ	随時	専門学校1、短大2、大学4、計7校 実数18人 延数271人

## 5 健康管理

- (1) 入所児童については、体位測定（月1回）や健康診断（内科：年2回、歯科：年2回等）を定期的を実施し、健康状態を的確に把握した。
- (2) 嘱託医、学校、家庭、グループホーム等との連携を強化しながら、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

## 6 安全・防災管理

利用者が安全で安心した快適な生活が送れるよう防災・安全管理対策として次の事項を実施した。

- (1) 月1回防災避難訓練の実施。また、グループホームは年4回（火災・地震想定各2回）実施した。
- (2) 防災担当者による自主点検及び法定点検を実施した。
- (3) 地域住民の協力（八甲学園地域防災協力隊）による夜間避難訓練を実施した。
- (4) 入所・通所利用者の生命を守るため、青森県警察指導による不審者対応等の実技研修を実施した。

## 7 ボランティア・実習生の受入れ

- (1) ボランティアの受け入れについては、地域社会とのつながりや相互理解、施設運営の活性化とともに、福祉の担い手の育成を目指し取り組み、今年度も青森市社会福祉協議会等関係機関と連携しながら啓蒙にも努めた。
- (2) 実習生の受け入れに当たっては、次代の施設職員を養成するという人材育成の視点に立ち、真摯な対応に心がけ育成に努めた。

## 8 地域との連携

- (1) 地域に開かれた施設として、施設運営に関してもさらに地域住民と連携し、地域との交流促進に努めた。また、障害者の理解と社会参加促進に努めながら、共生・共助の地域づくりの推進に努めた。
- (2) 青森市との福祉避難所の確保に関する協定の継続。



## I こども支援課

### 1 概況

入所支援においては、少子化及び在宅福祉サービスの充実、行政からの措置ケースの減少等により、近年においては入所利用児童の減少が顕著となっている。全国的に見ても、青森県内全体の障害児入所施設の定員は人口に対し供給過剰な状況にあり、また、措置率も極端に低い状況にある。

今後もこの傾向は続くものと考えられ、平成27年度からの定員30人を維持しそれに見合った職員を配置することは困難な状況となっている。そのため、令和元年度5月から、定員を20人とし事業運営した。定員は削減したものの、地域の社会資源として、地域や関係機関との連携、良質な福祉サービスの提供を継続して行ったほか、一時保護の受け入れを行い、地域のセーフティネットとしての役割を果たしてきた。

利用児・者の入退所の動向を見定めながら、今後の八甲学園のあり方、健全な事業運営のための方向性の検討を今後も継続していくこととした。

### 2 重点事項の実施状況

- (1) 強度行動障害や発達障害、精神疾患を持つ児童への専門的な支援及び職員の養成  
障害が多様化している中、職員の専門的知識や技術の習得のため、各種研修会や専門機関等とも連携しながら、職員の資質向上を図った。
- (2) 今後の障害児入所施設としての八甲学園の在り方、方向性の検討  
八甲学園の置かれている現状（入所児童の減少、運営状況等）を再分析のうえ、他施設の情報等も収集しながら、法人として今後の八甲学園の方向性を検討し、入所定員の縮小を方針とした。
- (3) 放課後等デイサービス事業の効率的な運営  
保護者や児童のニーズに対応できるよう、利用しやすい体制、環境を整え、効率的な運営を行った。目標利用率110%は到達できなかったが、令和元年度平均利用率は104%であった。

### 3 事業の実施状況

#### (1) 福祉型障害児入所施設

##### ① 定員

20人

##### ② 概要

ア 入所児童の生活支援を行うとともに、将来の生活に必要な身辺自立及び社会自立に向けた支援をした。

イ 生活環境に対して極めて特異な不適応行動を頻回に示し、日常生活に困難を生じている強度の行動障害のある児童に対しては、専門スタッフによる適切な指導訓練による個別支援をした。

ウ 被虐待児童への心理的ケアと支援の充実を図るため、当該児童に心理療法（主にプレイセラピー）を実施した。

##### ③ 支援目標

ア 児童の人権を尊重し、心身ともに豊かな生活が送れるよう支援した。

イ 児童の発達段階・状況に応じ、日常生活に必要な基本的な生活習慣の伸長に向けて支援をした。

- ウ 強度行動障害と判定された児童に対しては、医師や看護師、心理士等とも連携し、専門的な統一した支援を行い、行動障害の軽減に取り組むと同時に、職員のスキルアップと支援の定着化を図った。
- エ 児童のニーズを的確に把握するとともに、個別性に配慮した支援計画に基づくサービスを提供した。
- オ 児童が安全に安心して心豊かに暮らせるよう、家庭的な生活環境を整備し、児童の健康管理に留意する。特に衛生面については、徹底して取り組んだ。
- カ 地域の社会資源を活用し、個々に応じた自立生活ができるよう社会性の向上と社会参加の促進を図り、社会体験等については計画に基づき実施し、その他児童から要望のあった行事等については、必要に応じて実施する予定であったが、要望は無かった。
- キ 個々の児童の意向や課題を踏まえた支援計画に基づき、家庭、学校、医療及び関係機関との連携を図りながら必要な支援を行った。

## (2) 経過的施設入所支援事業

### ① 定員

福祉型障害児入所施設利用児童と合わせ 20 人

### ② 概要

- ア 18歳以上の入所利用者について障害者総合支援法に基づく昼夜を分離した障害福祉サービスを活用した支援を実施した。
- イ 地域生活等が可能な入所利用者に対しては、地域生活への移行を促進した。
- ウ 円滑に障害福祉サービスに移行できるよう、関係機関とも連携しながら適切な支援を行なった。

### ③ 支援目標

- ア 利用者の人権を尊重し、心身ともに豊かな生活が送れるよう支援した。
- イ 利用者の日常生活に必要な基本的な生活習慣の伸長に向けた支援を行なった。
- ウ 利用者のニーズを的確に把握するとともに、個別性に配慮した支援計画に基づくサービスを提供した。
- エ 利用者が安全に、安心して暮らせるよう生活環境の整備と家庭的な施設運営を行なった。
- オ 個々の能力に応じた自立した日常生活ができるよう、地域の社会資源を活用し社会性の向上に努めると共に地域生活への移行を踏まえた支援を行なった。
- カ 円滑に障害福祉サービスに移行できるよう、本人の意向を尊重しながら、相談支援事業所、他関係機関と連携して移行支援を進めた。
- キ 個々の利用者の意向や課題を踏まえた支援計画に基づき、家庭、医療及び関係機関と連携を図りながら必要な支援を行なった。

## (3) 短期入所事業（空床型）

### ① 定員

空床数による。

### ② 概要

障害児・者を介護されている家族の方が、病気、出産、冠婚葬祭、行事等の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、欠員及び入所児童の帰宅等により空いた居室を利用し、宿泊を伴う生活支援を提供した。

③ 支援目標

- ア 障害児・者が安全に、安心して過ごすことができるよう環境を設定し、健康状態に配慮した。
- イ 家族の要望に対し、できるだけ添えるよう家族や関係機関等と相談・連携しながら支援を行なった。
- ウ 介護にあたる家族を支え、障害児・者が継続して家庭での介護を受けることができるよう支援した。

(4) 障害児通所支援事業（多機能型事業所デイサービスセンターはっこう）

① 定員

10人

② 放課後等デイサービス事業

ア 概要

- a 学校通学中の在宅児を対象とし、平日の放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力の向上や将来自立した生活を送るためのトレーニング等を継続的に提供し、学校教育と連携しながら障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進した。
- b 利用児童に対して、日常生活における基本的な動作の指導及び集団生活への適応訓練を行なった。

イ 支援目標

- a 一人ひとりのニーズ・特性・発達段階・環境に合わせた支援計画を作成し、支援した。
- b 余暇支援・運動プログラム・自立支援・コミュニケーション支援を通して、成功体験を積み上げ、自己肯定感を高められるよう支援した。
- c 基本的日常生活動作や自立生活に必要なスキルの向上を図り、将来を見据えた支援を行なった。
- d 利用児童のより良い成長、発達を促すため、家庭・学校及び支援機関と連携した支援を継続した。

③ 親子療育

ア 概要

発達に心配がある子どもとその家族に対し、早期療育支援を行うことにより、当該家族に正しい認識を持ってもらい、家庭療育を通じ発達の促進を図った。

なお、利用希望の低下に伴い、親子療育事業は10月をもって休止し、3月をもって廃止した。

イ 対象者

受給者証を持っている未就学児（児童発達支援事業）と、受給者証をもっていない利用者については、法人独自事業として実施している「すこやか生活塾」の対象としたが、対象となる利用者はいなかった。

ウ 支援目標

- a 一人ひとりのニーズ・特性・発達段階・環境に合わせた支援計画を作成し、支援した。
- b 余暇支援・運動プログラム・自立支援・コミュニケーション支援を通して、成功体験を積み上げ、自己肯定感を高められるよう支援した。
- c 基本的日常生活動作や自立生活に必要なスキルの向上を図り、将来を見据え

- た支援をした。
- d 利用児童のより良い成長、発達を促すため、家庭・関係機関と連携した支援の継続を図った。

## Ⅱ 地域支援第一課

### 1 概況

利用者一人ひとりの意思や人格を尊重し、個々のニーズに応じた支援を基本とし、その人らしく生きがいの持てる地域福祉の拠点として、更なる支援の充実を図った。

生活介護事業については、重度の知的障害や自閉症をはじめとする発達障害を持つ利用者に対応できるよう、個々の特性に合わせた適切な支援環境を整え、専門的かつ個別的なサービスの提供を行った。

相談支援事業所では、利用者や家族がおかれている環境やニーズ等に応じた障害福祉サービス等をご利用いただくために、総合的な相談支援を行った。また、多様なニーズに応える包括的なサービス等利用計画を立てるために、地域の社会資源の開発を図り、行政や関係機関等と連携した。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 生活介護事業所の利用者の心身機能向上と安定

新たに、アニマルセラピーを月2回定期的に実施し、動物と触れ合うことで利用者の心身機能を高め、心を落ち着かせ、ストレスを軽減できるよう取り組み、利用者の心身機能向上と安定を図った。

#### (2) 生活介護事業所の職員研修等の充実

法人内の研修を始め、県内外の各種研修等に職員を派遣し、支援スキルの向上と維持に努めた。また、障害支援区分5以上で発達障害・強度行動障害の利用者が多く、利用者の障害特性に合わせた支援技術の習得が必要であるため、職員の知識習得とスキルアップのための職員研修・OJT及びOFF-JTの充実を図った。

#### (3) 生活介護事業所の利用率の向上

特別支援学校と連携し実習生の受け入れを積極的に行うとともに、相談支援事業所と連携し新規利用者の受け入れを行なった。定員20人に対し契約者数は年間を通して19～20人で推移し、利用率について、年間平均利用率80%であったものの前年対比の収益は向上した。

#### (4) 相談支援事業の質の向上と関係機関との連携強化

相談支援事業の対象が児童から成人であり、必要とされるスキルや情報も幅広いため、青森市相談支援事業所連絡会議（主催：青森市）に参加し、行政及び他相談支援事業所との連携を図りながら、業務に必要な情報収集し、連携の強化を図った。

#### (5) 信頼される相談支援の提供と安定した運営

信頼を得る相談支援を提供することを目的に、一人ひとりのニーズ等に基づいたサービス等利用計画を作成した。また、定期的なモニタリングの実施を行なうとともに、必要に応じて利用者や家族との面談、事業所訪問を実施し、サービス利用の把握に努めた。安定した運営を目指し契約者数を維持した。

### 3 事業の実施状況

#### (1) 生活介護事業所はっこう

##### ① 定員

20人

##### ② 概要

主に障害支援区分5以上の障害の重い方、発達障害の方を対象に、利用する方の

障害特性に応じ本人にとってわかりやすい環境設定を行なうとともに、日常生活スキル向上のための機能訓練・生産活動・創作・余暇・運動・レクリエーション活動等を実施した。

障害特性に合わせてグループを編成し、グループごとに支援プログラムを立て利用者一人ひとりの身体機能や行動特性に合わせた環境を設定し、利用者本人が達成感と成功体験を積み重ね、個人の強みを活かして活動ができるような手立てを用いた支援を行なった。

生産活動（軽作業）は、法人内外の事業所等からの事務作業の請負や、古紙等のリサイクルの作業を行い、回収や運搬作業を通じて外部の方々との交流を図った。

### ③ 支援目標

ア 利用者の障害特性に応じ本人にとってわかりやすい環境設定を行い、柔軟で自立的な活動ができるような視覚的支援、コミュニケーション支援を行った。

イ 利用者一人ひとりの身体機能や障害特性、個別のニーズ等に基づいた個別支援計画を立案・実施し、本人が達成感と成功体験を積み重ねられるようグループごとに支援プログラムを立て支援を行った。

ウ 毎月、創作活動・調理活動・音楽活動・ダンス・ゲーム等のレクリエーション活動や外出を実施し、グループごとの忘年会を企画した。レクリエーション活動や外出活動を充実させることで、楽しさの共有と余暇の充実を図った。

エ 利用者のサービスを円滑に行う上での関係機関、家庭との連携を強化した。

オ アニマルセラピーにも重点的に取り組み、動物と触れ合うことで利用者の心身機能を高め、心を落ち着かせ、ストレスを軽減できるよう定期的を実施した。

### ④ 行事及び事業実施状況

ア 利用者の状況

a 定員 20人

b 契約者数 19人

c 各月契約者数及び延べ利用人数

定員 20	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	20
開所日数	20	20	20	23	19	20	22	20	21	19	18	20
延べ 利用人数	318	332	353	399	322	319	351	300	299	328	314	355

イ レクリエーション活動（回数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
創作	3	2	2	3	2	1	2	2	2	3	2	2
調理	3	3	2	4	2	1	3	3	3	3	3	3
音楽・ ダンス	3	3	6	9	3	3	3	4	2	3	3	5
ゲーム	1	1	1	2	8	5	3	3	5	3	4	4

ウ 外出・外部行事（忘年会・慰労会含む）

月	回数	外出内容・外出先
4月	3	平内清掃、弘前公園（2回）
5月	3	おやつ買物、横内清掃、丸石沼田工場見学
6月	7	おやつ買物、中の島ブリッジパーク、わくわくランド（2回）、ラ・セラ、畑のキッチン、イトーヨーカドー
7月	6	おやつ買物、わくわくランド（2回）、金子ファーム、八甲田ロープウェー、八甲学園なつまつり
8月	3	おやつ買物、障害者スポーツ大会、田んぼアート
9月	6	おやつ買物、障害者スポーツ大会、ワラッセ、わくわくランド、競輪場公園、弥生いこいの広場
10月	3	中野もみじ山、八甲田ロープウェー、あおもりホット音楽祭
11月	3	おやつ買物、エルムの街、弘前市りんご公園
12月	4	育成会クリスマス大会、浅虫水族館、焼肉いわや（忘年会）、すたみな太郎
1月	3	おやつ買物、昭和大仏、サンロード
2月	4	おやつ買物、ボウリング、カラオケ、びっくりドンキー
3月	4	おやつ買物、ラウンドワン ※コロナウィルス対策により慰労会は園内にて実施

エ 職員研修関係

法人内の研修を始め、県内外の各種研修等に職員を派遣し、支援スキルの向上と維持に努めた。

オ 広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して利用の促進に努めた。

(2) 相談支援事業所あおば

① 概要

基本相談（支援障害者等の福祉に関する全般の問題につき、障害者等からの相談に応じ、必要な情報（障害福祉サービス等）の提供及び助言）及び指定特定相談支援・障害児相談支援（障害者や障害児等が障害福祉サービスを利用する前にサービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等）の支援した。

② 支援目標

ア 利用者の人権尊重を基本とし、本人の意向や選択を尊重した支援を行った。

イ 利用者一人ひとりの能力、適性、ニーズ等に基づいた助言を行った。

ウ 社会資源を活用するための助言、指導を行った。

エ 権利擁護のために必要な助言を行った。

オ 青森市が開催する研修等に積極的に参加し、相談支援専門員の資質の向上を図った。

③ 利用状況及び事業の実施状況

事業名	契約件数	サービス等 利用計画作成	モニタリング
(1) 指定特定相談支援事業	169 件	147 件	73 件
(2) 障害児相談支援事業	54 件	287 件	82 件

④ 職員研修関係

ア 青森市相談支援事業所連絡会議（主催：青森市）に、行政及び他相談支援事所との連携を図ることと業務に必要な情報収集を目的に参加した。

期 日	場 所
4月22日	青森市役所 駅前庁舎
5月17日	しあわせプラザ
6月26日	青森県立図書館
7月18日	しあわせプラザ
8月30日	油川市民センター
9月19日	しあわせプラザ
10月17日	油川市民センター
11月21日	油川市民センター
12月20日	青森県立図書館
1月16日	しあわせプラザ
2月及び3月	※新型コロナウイルスの影響で中止となった。

イ 法人内研修や県内の各種研修等に職員を派遣し、相談援助技術のスキルの向上に繋げた。



### Ⅲ 地域支援第二課

#### 1 概況

利用者一人ひとりの意思や人格を尊重し、個々のニーズに応じた支援を基本とし、その人らしく生きがいの持てる地域福祉の拠点として、更なる支援の充実を図った。

就労継続支援B型事業については、作業内容等を見直し、2班体制とした上で、より魅力ある事業内容、安定した事業運営ができるようサービスを提供し増収を図った。

地域で生活するグループホーム利用者に対しては、地域で安心して暮らし続けられるよう、様々な社会資源等を活用しながら、自立して日常生活を送ることができる地域支援の充実を図った。また、生活の質の向上及び生活環境の改善を図り、安全、快適な生活環境を整えると共に、なつどまりのグループホームとも連携し、積極的に利用者の受け入れを行う方針であったが、年度途中でなつどまりのグループホームの方向性が転換したことから、独自に入居率の向上のため見学・体験利用の受け入れを積極的に行い、新規受け入れに繋がった。

#### 2 重点事項の実施状況

##### (1) リサイクル班の安定した運営と生産活動

リサイクル班の安定した運営と生産活動を目指し、空き缶等有価資源物の回収先の新規開拓として、就労サポートセンターさつきと協議し、両事業所が効率的な回収を行うため住み分けを行い、新規回収先を獲得した。

また、令和元年度は、条件等が合致せず助成金の応募には至らなかったが、生産活動に必要な缶プレス機及びキャップ粉砕機等の機材等導入のため、今後も助成制度の活用のため情報収集等を積極的に継続していく。

##### (2) ショップ班の安定した運営と生産活動

ショップ班の安定した運営と生産活動を目指し、県内の福祉施設で作られた製品の販売及び各イベント販売へ参加のほか、ランチ提供に関するPR活動及びメニュー作成を行い、前年比197.2%の増収となった。

また、共同受注窓口として農福連携マルシェを開催し、活発な販売活動を行った。

##### (3) 就労継続支援B型事業の利用率の向上

利用者には選ばれる魅力ある事業所を目指し、利用者の働く意欲に繋がるよう、再編した作業班ごとに作業内容の見直しを行い、収益性のある作業を増やすなどし、利用しやすい体制づくりを行った。

また、20人定員に対し年度末契約者数は25人(男18・女7)となっており、利用率は110%となった。

##### (4) なつどまりグループホームの縮小に伴う、受け入れのための段階的定員の増員

年度当初は、なつどまりのグループホームと連携し、積極的に利用者の受け入れを行う方針であったが、年度途中でなつどまりのグループホームの方向性が転換したことから、独自に入居率の向上のため、見学・体験利用の受け入れを積極的に行い新規受け入れに繋がった。定員は、年度当初52人から55人へ増員を図った。

##### (5) 食生活の充実と各グループホームのサービスの質の均一化

平成30年度中から就労継続支援B型事業所はっこうと連携し、栄養士作成のメニューによる食事を「こだわりの店『つぼみ』」から購入し提供した。

健康面において健診結果からコレステロール等の数値の維持・改善や体重のコントロールに繋がっているケースが多くみられたため、各グループホーム間の食事の質の

均一化を図ることで改善に向けて対応した。今後は、食事の内容について、より利用者の希望を取り入れ満足度を高めていく必要があるため、満足度調査結果による利用者希望のメニュー、量等を取り入れていく取り組みを行うこととした。

(6) 老朽化した物件を見直し、より快適な生活環境を提供

老朽化した物件の見直しについて、今年度、契約には至らなかったが、不動産やハウスメーカーを活用しながら空き物件等の視察・内見を行った。今後も、好条件の物件等について、都度、情報収集を行い継続して対応していく。

### 3 事業の実施状況

(1) 就労継続支援B型事業所はっこう

① 定員 20人

② 概要

一般就労が困難な方々に対して生産活動の場を提供し、ニーズに即した支援計画に基づいて就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な作業支援を実施した。作業班及び作業内容はリサイクル班、ショップ班の2班体制とし、他班への協力体制を取ることで様々な作業体験を行えるよう支援した。

また、一人ひとりの強みを伸ばし、通所し続けたいと思い、作業意欲を持って働くことができる環境を整備することを目的に、職員一人ひとりが事業所のビジョンを描き理想とする支援や運営方法について話し合い、取り組めるものから実践し、利用者が働く喜びを実感出来る事業所作りに努めた。

地域との関わりとして関係機関等との連携を強化し、共生・共助の地域づくりを目指すと共に、利用者の社会参加の促進と選択性のある余暇活動の充実を図った。

③ 支援目標

ア 利用者のニーズに即した支援計画を作成し、働く喜びを実感できる支援を行った。

イ 利用者一人ひとりの強みを伸ばし、通所したいと思える、作業意欲をもって働くことができる環境を整備した。

ウ 地域で関係機関等との連携を強化し、共生・共助の地域づくりを図った。

エ 社会参加の促進と選択性のある余暇活動の充実を図った。

④ 生産活動及び事業実施状況

ア リサイクル班

民間事業所及び合子沢町会、北蛭沢町会への回収を行い、主たる収入源であるアルミ缶の回収量が減らないよう努めた。また、地域との連携の一環として北蛭沢町会においては回収ボックスの洗浄を請負い、年2回実施した。作業だけではなく作業場の清掃等維持管理に重点を置いた支援を行なった。

請負部門は、清掃、外部受注の作業を行なった。清掃作業は八甲学園内の清掃を受け持ち、毎日の園内清掃に従事した。

菜果部門は、畑作業で野菜等の栽培を行い、ショップ班の喫食事業の原材料として提供及び販売を行なった。また、11月に開催した農福連携マルシェにおいてはショップ班と共同で枝豆、かぼちゃ等を加工したスイーツを販売した。

外部受注部門は、青森市パークメンテから受注した5か所（平和公園、浜館公園、奥野中央公園、浜田中央公園、野木和公園）の花植え、水撒き、除草作業や、県民福祉プラザ植栽管理と雪囲い、市内10か所のグループホームの除雪等を行なった。

イ ショップ班（県民福祉プラザ2F こだわりの店『つぼみ』）

共同受注窓口体制事業で県内の福祉施設で作られた製品の販売及び各イベント販売のほか、喫食事業として一日限定40食のランチ提供と、共同生活援助事業所サンハウス入居者への食事販売を行なった。また、メニュー・味・量等についての様々な意見をアンケート方式により把握し、より良い食事内容の提供に努めた。

⑤ 利用者の状況

区 分	人 数
定 員	20
令和元年度開始時利用者数	24(男17・女7)
令和元年度終了時利用者数	25(男18・女7)

⑥ 各班の売り上げ状況 (単位：円)

作業班	売り上げ
リサイクル班	4,030,793
リサイクル班（請負部門）	2,895,732
ショップ班	13,788,870
計	20,715,395

⑦ 工賃支給状況 (単位：円)

区 分	金 額
工賃（1人当たり月平均）	10,445
一時金（1人当たり年平均）	40,859
支給合計（1人当たり年平均）	14,661

⑧ 行事等

	レクリエーション	その他(地域交流等)
4月	事業所説明会、ドライブ外出	
5月	カラオケ大会、花見、自然散策	
6月	ボウリング大会	
7月	八甲学園夏まつり、カラオケ大会	
8月		
9月	温泉浴	
10月	BBQ大会	
11月		農福連携マルシェ (3日間開催)
12月	忘年会	しめ縄作り
1月	初詣	
2月	水族館見学	
3月	慰労会 ※コロナウィルスにより園内実施	

⑨ 職員研修関係

法人内研修、学園内での勉強会の他、県内外の各種研修等に職員を派遣し支援スキルの向上に努めた。

⑩ 広報関係

就労継続B型事業所はっこうとして、利用者獲得や事業所の活動紹介等の内容のパンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

(2) 共同生活援助事業所サンハウス(共同生活援助事業)

① 定員 55人

② 概要

利用者が地域で自立した生活を送るための拠点として、ニーズを的確に把握し、豊かな生活を送ることができるよう個別支援計画を作成し、支援員・世話人が共通認識を持ちながら計画に沿った支援の提供に努めた。

③ 支援目標

ア 利用者の主体性を尊重し、意思やニーズに応じたサービスを提供した。

イ 地域社会の一員として安心して生活できるよう、相談支援事業所、就労先及び行政機関等との連携を強化した。

ウ 防災体制を整備し、防災計画に基づいた訓練を実施することで、各種災害への意識を高め、安全対策を徹底した。

エ 健康保持に向け、バイタルチェックを実施し健康意識を高めるとともに、医療機関等と連携し、早期発見・早期治療に努め健康管理の充実を図った。

オ 食事提供については、栄養士監修のもと、健康面、栄養面に配慮したバランスのよい食事を提供するとともに、グループホームにおけるサービスの質の均一化を図った。

カ 交通安全の意識高揚のため、交通安全教室を実施した。

キ 利用者の会「はっぴー」の活動を通じて余暇活動(旅行・レクリエーション等)の充実を図った。

ク あおもりグループホーム連絡協議会における各部会活動を通じて、利用者の余暇活動の充実と職員、世話人の支援技術の向上を図った。

ケ 老朽化した建物についての見直しを行い、より快適な生活環境の確保を図った。

④ 事業実施状況

ア グループホームの設置状況

名称(地区)	設置年月日	定員
①サンハウス(緑)	平成5年4月1日	6
②第二サンハウス(蛍沢)	平成6年4月1日	5
③第三サンハウス(新城)	平成8年4月1日	5
④第五サンハウス(幸畑)	平成25年12月1日	5
⑤旭ハウス(大野)	平成21年4月1日	5
⑥うとうハイム(古館)	平成13年10月1日	5
⑦第二うとうハイム(筒井)	平成22年4月1日	5
⑧おくのハウス(奥野)	平成25年12月1日	9
⑨紅葉ハウス(新城)	平成24年10月1日	5
⑩第二紅葉ハウス(新城)	平成25年11月1日	5
合計		55

イ 利用者の状況

定員及び利用者状況	
定員	55
令和元年度当初利用者数	50(男38・女12)
令和元年度内の利用終了者数	1(男0・女1)
令和元年度内の利用開始者数	4(男2・女2)

令和元年度末現在の利用者数	53 (男 40・女 13)
---------------	----------------

ウ 行事等

月	内 容	地域行事
4月	はっぴーの会幹事会	
5月	避難訓練	
6月	はっぴーの会カラオケ大会	
7月	育成会ビアパーティー参加	北蚩沢町会ねぶた運行
8月		
9月	はっぴーの会夕食会 (すたみな太郎)	
10月	あおもりホット音楽祭 はっぴーの会日帰り旅行 (八戸)	
11月		
12月	避難訓練 育成会クリスマス大会参加 はっぴーの会忘年会	
1月		
2月	※コロナウィルス対策の為中止	
3月	※コロナウィルス対策の為中止	

※「はっぴーの会」とは利用者の親睦組織である。

⑤ 職員研修関係

法人内、八甲学園内での研修会のほか、各種外部研修会に職員及び世話人が参加し、支援技術の向上と情報共有を図った。

⑥ 広報関係

各グループホームの写真等を掲載したパンフレットを作成し、体験利用者や関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

### 第3 養護老人ホーム安生園

#### 1 概況

事業所の運営にあたっては、「当事業団の経営理念、職員倫理綱領」及び「安生園の基本理念」を遵守し、養護老人ホーム安生園・ヘルパーステーションあんじょう・居宅介護支援センターあんじょうの各事業所が常に連携し、利用者の生活支援を推進してきた。また、安定的運営を確保するため、職員一丸となり利用者獲得の積極的な広報活動に努めてきた。

非常災害対策では、隣接する「特別養護老人ホームすこやか苑」との災害時等の協力体制の下、利用者の安全確保に努めた。

#### 2 職員の状況

所 属	養護老人ホーム	ヘルパーステーション	居宅介護支援センター	計
職員数 (人)	23 (医師2名含む)	11	4	38

#### I 養護老人ホーム安生園

##### 1 概況

養護老人ホーム安生園は、昭和26年の開設以来、老人福祉法の基本理念に基づいた施設運営と、利用者の権利擁護と意思決定を尊重し、個々の支援計画に基づいた生活支援に努めてきた。利用者の生活支援では、潤いと生きがいのある生活をしていただくため、個々に要望を聴き取るとともに自治会代表者会議等で意見を求め、各行事に要望等を反映させて生きがい支援の充実に努めた。

令和元年度の措置入所は、5市町村15人、退所は、3市町村15人となっている。利用者の高齢化（平均年齢80.6歳、80歳以上57人）により、介護を必要とする利用者は、要支援・要介護者あわせて64人となっており、介護保険サービスは、外部・内部あわせて計76人（重複計上）が利用している。身体機能の低下のほか、認知症、病弱者、精神疾患のある方やDV、触法高齢者など、ニーズの多様化と複雑化が顕著であり、従来の見守り支援から、きめ細かな専門的な支援が必要となっている。特に近年は、転倒防止用歩行器やシルバーカーの利用、福祉手摺りの設置などの対策を講じなければならない利用者が増えている。

リスクマネジメントでは、令和元年度のヒヤリハット・アクシデントが88件、うち46件が転倒であり、転倒怪我による青森市への事故報告事案は5件となった。一つの転倒は大きな事故に繋がることから、利用者及び職員への注意喚起を徹底するなど転倒防止に努めてきた。また、病弱者の医療面においても医療機関と連携を図りながら利用者の身体機能の維持に努めた。

地域交流については、新たに実習を受け入れるとともに、虹ヶ丘町内会の一員として夏祭りに参加したほか、近隣町会に施設備品の貸し出し等を行った。また、当園の地域防災協力隊に地域住民の方々に参加していただくなど、積極的に地域と関わってきた。

新たな試みとして、食品ロス軽減に伴うコープフードバンク活動に賛同し、農産品の提供を受け、すこやか苑と共に活用した。利用者への食事やおやつとして提供することができ、好評を得た。

## 2 重点事項の実施状況

### (1) 安定的経営基盤の確保

安定的経営基盤の確保に向け、包括支援センター等の関係機関へ出向いてのPR活動のほか、近隣町会の協力を仰いで回覧板や掲示板の活用や、市内の公営住宅へ6月・10月・12月の3回に渡りポスティングを実施し、新規利用者の発掘、獲得に努めた。

活動の成果は顕著に見られ措置入所は15人となったものの、入院や施設移行等により措置解除となる者も15人と入退所が激しい結果となった。

### (2) 福祉サービス第三者評価受審

令和元年度、福祉サービス第三者評価受審予定としていたが、県内では社会福祉士会のみが受託機関となったことで受託数が限られ、当年度の受託はできないとの回答を得て、令和2年度での受審予約とし持ち越すこととなった。

### (3) 老朽化に伴う建替え検討

建替え検討委員会を設置し検討した。青森市の施設整備補助金の活用について、管轄である高齢者支援課と協議したが、これまで「青森市高齢者福祉・介護保険事業計画」に養護老人ホームの整備に関する文言の記載がないため、現時点では今後の見通しが持てない状況となっている。このことから、改築のほか、付帯設備も含む建物の長寿命化を視野に入れた修繕も検討しながら、関係機関への働きかけを行っていく。

### (4) 非常災害対策の強化

平成30年度に実施した、社会貢献学会との非常災害時における炊き出し訓練を経て、令和元年度は、安生園災害マニュアルの作成や検証訓練を実施し、一定の成果を得ることができた。また、初の試みであった風水害を想定した訓練では、利用者を隣接するすこやか苑2階へ避難誘導し、利用者への意識付けを図った。

## 3 職員の状況

	園長	推進監	課長	主任	副主任	支援員 事務員	看護師 栄養士	業務 補助員	専任 当直員	医師	計
総務課	1		1			1事務	1看護 1栄養		3	2看護	10
高齢者 支援課		1		2	2	6支援		2			13
計	1	1	1	2	2	7	2	2	3	2	23

## 4 利用者の状況

### (1) 入退所者数

(1) 定員	100人
(2) 平成30年度末現在の利用者数	97人
(3) 令和元年度内退所者数	15人
(4) 令和元年度内入所者数	15人
(5) 令和元年度末現在の利用者数	97人

### (2) 市町村別入退所内訳等

	内訳	事由
入所 計15人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森市11人</li> <li>・五所川原市1人</li> <li>・つがる市1人</li> <li>・外ヶ浜町1人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅者9人</li> <li>・DV被害者2人</li> <li>・病院退院者2人</li> <li>・聴覚障害者1人</li> </ul>

	・中泊町 1 人	・触法者 1 人
退 所 計 15 人	・青森市 13 人 ・五所川原市 1 人 ・大鰐町 1 人	・施設移行 12 人 ・死亡 1 人 ・長期入院 2 人

(3) 介護認定状況等

要支援 1～2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4～5	計
11	38	13	2	0	64

(4) サービス利用状況

項 目	サービス内容	利用者数
外部サービス	デイサービス、ヘルパー	30 人
内部サービス	ヘルパー、福祉有償運送	46 人
計		76 人

5 入所相談・見学状況

相談件数	48 件
見学件数	35 件

6 事業の実施状況

(1) 行事等

名 称	実施時期等	参加人数	備 考
各寮懇談会	月 1 回	延 441 人	
音楽療法	月 1 回～2 回	延 226 人	※3 月新型コロナウイルス感染症対策中止
観桜会	4/25	69 人	
3 B 体操	月 1 回	延 163 人	※3 月新型コロナウイルス感染症対策中止
自治会代表者会議	年 4 回	延 17 人	
コーヒーサロン	年 3 回	延 93 人	※3 月新型コロナウイルス感染症対策により職員が対応
ビデオ上映	21 回	延 232 人	
出張販売 (6 業者)	週 1～2 回		
お買い物イベント	10/18	32 人	主催：沖館薬局シニアクラブ事業部
利用者との集い (4 月)	4/1	44 人	転入職員紹介
自治会総会	4/1	37 人	
輪投げ大会	7/3	54 人	交流会
地域交流懇談会	7/13	12 団体	
納涼夏祭り	7/24	119 人	他、サッカーラインメール青森選手
盆墓参り	8/6	10 人	
敬老会	9/13	式 典 45 人 祝賀会 89 人	
市内遊覧	11/8	12 人	函太郎 (寿司)
	11/14	9 人	すたみな太郎 (バイキング)
7 日日ねぶた観覧	8/7	19 人	ホテルクラウンパレス昼食
ミニ運動会	10/17	30 人	
リフレッシュ日帰り旅行	10/3	19 人	星と森のロマンチックピア
文化祭	11/2	82 人	他、家族・来賓 30 人
年忘れお楽しみ会	12/19	89 人	他、八桁社中・保健大生・明の星短大生参加
餅つき会	1/8	73 人	サッカーラインメール交流参加



節分豆撒き	2/7	48人	
物故者慰霊祭	3/5	36人	※新型コロナ対策により住職無で行う
利用者との集い(3月)	3/27	45人	※転出職員紹介

(2) クラブ活動

名 称	実施回数	参加者数	備 考
茶道	11回	延 147人	※3月新型コロナ感染症対策中止
華道	11回	延 65人	※3月新型コロナ感染症対策中止
書道	10回	延 36人	※3月新型コロナ感染症対策中止
チェアヨガ	16回	延 212人	※3月新型コロナ感染症対策中止
籐工芸	4月～7月開催	延 15人	※講師体調不良に伴い休止
大相撲星取り	年6回	延 72人	
カラオケ	20回	延 275人	

(3) 地域交流

団体等名称	交流内容	実施時期	備 考
虹ヶ丘町会	虹ヶ丘町会夏祭り	7/27	4人参加
北赤坂町会宝寿会	利用者交流会 (輪投げ大会)	7/3	4人参加
自由ヶ丘老友ほのぼの会			5人参加

(4) 保健衛生

内 容	実施時期等	人数等	備 考
身長測定	年1回 4/18	全員	
血圧・体重測定・検温	月1回	全員	
入浴	週3回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土
通院(村上病院他)	週間計画表により実施	対象者	
結核健診	4/4	94人	
春・秋の基本健診 (理学的検査・尿・血液・心電図)	5/27	92人	
	11/6	90人	
嘱託医による講話	8/20、2/25	延 59人	
歯科検診	4/10、4/17、4/24	87人	
歯科衛生指導	年4回	57人	
内科問診及び インフルエンザ予防接種	11/6	86人	嘱託医
嘱託医による医療相談	月2回	対象者	内科
嘱託医による診察	月1回	対象者	精神科
感染症対策委員会	4回		
春の大掃除	6月		
秋の大掃除	12月		

(5) 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加人数	備 考
交通安全教室	5/17	42人	青森警察署
夜間想定防災訓練	6/26	115人	
夜間防災訓練	7/13	145人	地域防災協力隊 30人
災害時炊き出し訓練	9/26	130人	社会貢献学会検証
風水害訓練	9/26	22人	すこやか苑 2階へ避難

(6) 交流・ボランティア

① 交流 (慰問)

団体等名称	内 容	実施時期等	備 考
明の星幼稚園交流会	歌・音楽劇	9/12	園児 14 人
聖アルバン幼稚園	歌・手遊び交流	11/11	園児 23 人
青森県立保健大学	三味線演奏	9/28	学生 9 人
明の星短期大学	合唱サークル	10/26	学生 10 人
三内保育園・西田沢保育園	お遊戯・合唱	12/3	園児 26 人

② 招 待

団体等名称	内 容	実施時期等	参加人数
青森市	ねぶた招待事業	8/2	16 人
青森県社会福祉協議会	明治大学マンドリン演奏	9/4	8 人
ラインメール青森FC	サッカー観戦	9/23	20 人
ラインメール青森FC	シニアエスコート・観戦	10/20	20 人
青森県社会福祉協議会	みちのくプロレス観戦	11/17	4 人

③ ボランティア

団体等名称	奉仕内容	実施時期等	人 数
シニアカレッジ	花壇整備 (花の植付け)	7/9	16 人
	花壇整備 (除草)	8/20	5 人
	花壇整備 (冬支度)	11/5	6 人
青森市立佃中学校	納涼夏祭り	7/23~7/24	4 人
青森大学			18 人
名寄市立大学			1 人
青森中央学院大学	業務補助・交流	8/21~8/23	6 人
		9/5~9/7	1 人
青森市寿大学	業務補助・交流	12/11	20 人
東奥学園高等学校	業務補助・交流	12/22	1 人
		1/9	2 人
青森市立佃中学校	冬の大掃除	12/26	12 人

(7) 地域福祉関係

団体等名称	内 容	実施時期等	備 考
市内グループホーム (1 施設)	音楽療法の開放	月 1~2 回	
青森県立青森第二高等養護学校	就業体験	年 3 回	コーヒースロン

(8) 職員研修関係

内 容	実施時期	参加人数	備 考
「救命講習」及び「誤嚥時の対応」	5/29	41 人	東消防署筒井分署
介護保険研修	8/28	12 人	
認知症理解促進研修	11/14	43 人	芙蓉会病院 村上拓也院長
虐待防止と権利擁護	12/5	12 人	東部包括 佐藤祐亮氏
安生園職員研究発表会	12/20	26 人	

(9) 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月 1 回	※3 月新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

苦情解決協議会	年 4 回	※第 4 四半期新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止
---------	-------	-------------------------------

(10) 実習・実務研修等受入

依頼元（実習内容）	受入期間	人 数
青森明の星短期大学 （介護福祉実習Ⅱ－B）	6/1～6/20	1 人
青森明の星短期大学 （介護福祉実習Ⅱ－B）	6/19～7/5	1 人
青森明の星短期大学 （介護福祉実習Ⅱ－C）	9/2～9/27	2 人
青森明の星短期大学 （介護福祉実習Ⅱ－A）	11/18～12/7	1 人
青森県立青森第二養護学校 （体験実習）	7/16、8/27、9/20、10/24、11/19	66 人
青森県立青森第二高等養護学校 （福祉サービス体験学習）1 年生	6/25、10/8、12/3（※2/25 中止）	21 人
青森県立青森第二高等養護学校 （産業現場実習）3 年生	6/27、7/11、10/17、10/24、11/28 12/5（※1/30、2/13 中止）	42 人
青森県立青森第二高等養護学校 （現場実習）1 年生	9/9～9/20	1 人
青森県自治研修所 （市町村新採用職員体験学習）	10/10、10/17、10/31、11/7、11/14	18 人
青森市立佃中学校（職業体験）	7/23～7/24	4 人
青森市立油川中学校（職業体験）	9/5～9/6	2 人
青森市立造道中学校（職業体験）	8/29	5 人

(11) 食品ロス軽減活動

月 日	提供生鮮食品類	使用用途
8 月 26 日（月）	◎根菜類系 （白菜、ほうれん草、サニーレタス、人参 ジャガイモ・里芋、青梗菜、蓮根等） ◎フルーツ系 （バナナ、キウイ、リンゴ、ぶどう等） ◎キノコ系 （椎茸、しめじ、えのき、なめこ等）	安生園・すこやか 苑に入所する方々 への食事提供食材 や、おやつとして 提供し活用した。
9 月 16 日（月）祝日		
10 月 14 日（月）祝日		
11 月 11 日（月）		
12 月 2 日（月）		
12 月 30 日（月）休日		
1 月 27 日（月）		
2 月 17 日（月）		
3 月 16 日（月）	※新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止	

※ コープフードバンクは品質には何ら問題のないものの、やむなく廃棄されてしまう食品を無償で提供を受け、支援を必要とする福祉分野の施設・団体に必要な食品を寄贈し食べられる食品を有効に活用する活動である。安生園でもこの趣旨に賛同し定期的に食品の提供を受け、利用者の方々への食事提供へ有効活用している。

## Ⅱ 老人居宅介護等事業安生園（ヘルパーステーションあんじょう）

### 1 概況

サービス利用実績は、前年度実績を下回る結果となった。要介護利用者数は、前年比延べ901人減、収入では1,115千円減となった。また、介護予防利用者数は、前年比41人減、収入で276千円減となり、合計1,391千円の減収となった。これは、支援員1人、非常勤ヘルパー1人が退職し、職員の欠員状態が長く続いたことが背景にあり、このことによって新規サービスの受け入れが困難な状況となり減収につながった。

福祉有償運送事業（通院や買い物等）においても、需要があるものの対応できる職員に限りがあり、すべての利用者に応えることが難しい状況であった。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 安定的経営基盤の確保

職員の退職に伴う欠員が生じたことで、年間平均契約数は62.9人と目標である80人には届かなかった。しかし、11月に臨時支援員1人採用となり、12月から3月にかけて新規利用者7人獲得している。

事業所内研修を毎月実施したほか、外部研修にも可能な限り参加し各職員のスキルアップを図った。

### 3 職員の状況

職名	管理者兼サービス提供責任者	サービス提供責任者	訪問介護員	計
人数	1	1	9	11

### 4 事業の実施状況

#### (1) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

合計		訪問介護		予防介護	
延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)
7,144	23,622,281	6,887	22,774,719	257	847,562

#### (2) 福祉有償運送事業

	福祉タクシー	介護タクシー
走行距離 (km)	58.9	3969.6
利用人数 (人)	8	1,263
輸送回数 (回)	8	1,321
収入 (円)	12,480	452,600
収入合計 (円)		465,080

### Ⅲ 居宅介護支援事業安生園（居宅介護支援センターあんじょう）

#### 1 概況

令和元年度も引き続き、主任介護支援専門員を含む介護支援専門員4名体制を維持し、特定事業所加算Ⅱを取得した。

利用実績は、前年度比延べ1,127人に対し1,131人と4人増とごく僅かであったが、収入としては要介護3以上の利用者が増えたこと、各種加算対象者が多かったこともあり、居宅介護支援費と介護予防支援費を合わせ372千円の増収となった。

実務経験の浅い介護支援専門員も在籍しており、内部研修のほか、外部研修にも積極的に参加し、介護支援専門員の質の向上に努めた。

#### 2 重点事項の実施状況

##### (1) 安定的経営基盤の確保

上半期は利用者の施設入所や死亡による契約終了者が多く、利用者は減少傾向にあったが、下半期に他事業所の廃止により一度に14人の利用者紹介があるなど、利用者獲得を行うことができた。目標である年間平均95.5人には届かなかったが、令和元年度年間平均利用者数は94.3人となり利用者数は前年度より増加に転じた。

介護支援専門員の研修等に積極的に参加し、ケアマネジメントの向上を図った。

#### 3 職員の状況

職名	管理者 (主任介護支援専門員)	介護支援専門員	計
職員数	1	3	4

#### 4 事業の実施状況

合計		居宅介護計画		予防介護計画		認定調査	
延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行 額 (円)
1,393	20,493,037	1,131	19,442,240	125	486,990	137	563,807

## 第4 障害者総合福祉センターなつどまり

### 1 概況

施設の運営にあたっては、法人の基本理念とともに、各寮において定めた「基本理念」及び「基本方針」に基づき施設運営に努め、利用者一人ひとりの人格・人権を尊重し、その人らしい豊かな人生を自己実現できるよう利用者や家族等の思いに寄り添い支援した。

中でも、利用者の権利擁護や虐待等不適切支援の防止に向け、法人内研修はもとより、寮ごとに出張研修や内部研修を強化し、職員の意識向上に取り組んだ。

また、インフルエンザやノロウイルス等の感染症予防対策の徹底に努めていたが、しらかば寮において、1月中旬、職員及び利用者20数人に感染性胃腸炎が発症し、面会や利用者間の交流を制限するなどして対応した。幸いにも重篤者が出ずに終息した。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、より一層の危機感を持ち、3月から感染症予防対策（手指消毒・マスク着用・検温等の徹底、面会や外出等の制限、行事の見直し等）に重点的に取り組み、継続している。

人材確保については、非常に難しい状況の1年であり、退職者数が前年を上回った。退職要因は多岐にわたるが、早期退職者の防止や定着への取り組みが及ばなかった。

しらかば寮においては、12月から利用者個別の栄養・健康管理に着目した栄養ケア・マネジメントを開始した。

さつき寮においては、新年度から共同生活援助事業の運営について、平内町にある同法人事業所である「就労サポートセンターはくちょう」へ事業所機能を移管する。

### 2 重点事項の実施状況

(1) 人権擁護と虐待防止の意識を高め質の高いサービスの提供に努める。

- ① 職員セルフチェックリストを毎月実施した。
- ② 擁護関係の外部研修への参加及び内部全体と寮ごとの研修を実施した。
- ③ 苦情解決協議会及び虐待防止委員会を10月と1月に開催した。
- ④ 人権侵害ゼロへの誓い宣言を年2回実施した。
- ⑤ 困難事例支援への外部機関等によるコンサルテーションについては、支援員不足等により活動が計画どおり実施できなかった。
- ⑥ コンプライアンス・チェックシートによる自己検証を年2回実施した。

(2) 各事業所の安定した経営基盤の構築を図る。

- ① 利用定員の充足率100%に向け、各寮が連携し迅速に欠員補充の対応を行った。
- ② 会議等において、法人全体や各寮における予算執行状況についての報告を四半期ごとに行い、経営に関する意識向上に努めた。
- ③ 障害支援区分の認定調査において、障害支援区分の適正化を促進し、しらかば寮では2人、さつき寮では4人が区分変更となり、既存事業の収入増につながった。

(3) 良質な福祉人材の確保と育成に努める。

- ① 魅力ある職場づくりの取り組みとして、新採用職員に対してエルダー制度での支援を、またそれ以外の職員に対しては職員面談シートを利用した面談等を実施した。職員定着の離職率5%未満を目指したが、結果6.5%となり今後の課題となった。
- ② サービス管理責任者研修に3人、強度行動障害支援者養成研修に16人を受講させた。
- ③ OJT及びOFF-JTの取り組みは、各寮ともに職員不足等の面から継続的・効果的に十分行えなかった。

- ④ 職員との定期的面談は年3回実施した。
- (4) 職員の健康管理と労務管理に努める。
  - ① 労災事故として、利用者支援中の怪我が2件、出勤時の駐車場から職員玄関までの歩行中の転倒事故1件があった。
  - ② 年次有給休暇の取得率は平均8.4日ではほぼ前年度同様に推移した。
  - ③ ストレスチェックを年1回実施し、衛生委員会等において分析を行った。
  - ④ 健康診断後の要精検者等へ結果通知及び必要な指導を行い、要精検者等による再受診の結果報告者数は前年度では半数以下であったが、令和元年度は半数以上の報告が有り効果がみられた。
- (5) 生活環境の充実に努める。
  - ① 敷地内の道路のひび割れ補修については、予算の関係上次年度以降に先送りした。
  - ② 各種設備等の点検については、利用者の安心・安全な環境を確保するため、定期・随時点検を実施し早めの修繕、部品交換等を行った。
  - ③ しらかば寮1課男子ホーム北側塀に非常災害時等に避難できる扉（非常口）を設置した。
  - ④ 環境整備や大掃除等は計画どおり取り組んだ。
  - ⑤ 経費節減に向けたLED照明器具への計画更新は、パソコンの更新及び修理に係る経費増により、次年度以降に先送りした。
  - ⑥ 利用者の食生活の充実に努めるため、嗜好調査を実施した。また、給食委員会で利用者等の意見・要望を伺い給食メニュー等に反映させた。
  - ⑦ 日本財団へ車いす対応車輛の助成申請を行ったが不採択となったため、次年度以降の申請に向けてのこととした。
- (6) 地域等への情報発信の充実に努める。
  - ① 広報誌は計画どおり年3回発行した。
  - ② ホームページ更新にあたっては、年3回更新をしたものの、適時による更新には至らなかったため、今後反省を踏まえて対応していく。
- (7) 施設機能（マンパワー）の地域への開放に努める。
  - ① 職員による地域住民の生活に役立つための「健康教室（健康保持・増進に関する講話及びヨガ指導）」を8月に小豆沢公民館にて行った。

### 3 職員の状況

所 属 (職員数)	所長	寮長	課長	主任	副主任 支援員・看護師	支援員	看護師	事務員	栄養士	運転員	専任 当直員	世話人	合計
総務課	1		1					2	2	1	3		10
しらかば寮		(1)	2	1	3	41	1						48 (1)
さつき寮		1	2		6	19						6	34
合 計	1	1 (1)	5	1	9	60	1	2	2	1	3	6	92 (1)

※ 嘱託医は除く。

※ 所長はしらかば寮長を兼務する。

### 4 職員研修

利用者に最良の支援を提供するとともに、福祉サービスの質の向上及び職員の資質向

上を図るため、職場内研修会（虐待防止研修、感染症予防研修等）や研究発表会並びに職場外研修（支援者講座等）についても計画的な取組みを実施した。

また、職員個々の資格取得研修（サービス管理責任者研修、強度行動障害研修等含む）を推奨し、人材育成に積極的に努めた。

## 5 健康管理

健診や癌検診（30歳以上の女子利用者には子宮癌検診、20歳以上の女子利用者には乳癌検診、40歳以上の利用者には胃癌及び大腸癌検診）を実施するとともに、嘱託医（精神科）や医療機関、並びに家族とも連携しながら、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

また、インフルエンザ等感染症の予防対策として、インフルエンザワクチンの予防接種や手洗い、うがい等の励行に努めたほか、次亜塩素酸水での居室等の除菌等（空中散布等）を継続的に実施した。

## 6 食事

食事は施設生活における大きな楽しみの一つであることから、少しでも家庭的な雰囲気の中、楽しくゆっくりくつろいだ食事ができるよう配慮した。

また、季節の食材を取り入れた多彩な献立（新メニュー等）や暦行事に合わせた行事食等の提供に努めたほか、利用者の嗜好、身体状況等（咀嚼能力等）に配慮しながら、様々な食事形態等を準備し個別の対応を行った。

特に、しらかば寮においては、利用者の栄養・健康状態に着目した栄養ケア・マネジメントを12月から開始した。

## 7 安全・防犯・防災対策

### （1）安全対策

- ① 利用者の安全確保を最優先として、安心・安全な日常生活が送れるように各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、アクシデントレポート等の速やかな報告と検討内容による対応策を講じた。
- ② 外部からの不審者等侵入に対する危機管理の観点から、利用者の安全確保を最優先とした、危機管理体制マニュアル（不審者対応）の作成及び周知徹底を図るとともに、不測の事態を想定した不審者等に対する防御用具の使用方法及び対応・実技について警察官の協力を得て訓練を実施した。

### （2）防災管理

- ① 新採用者及び転入職員等に対し、消火器や防災監視盤の使用手法など非常時に対応できるよう防災教育を行った。
- ② 消防計画に基づいた消防訓練の実施及び水害・土砂災害を含む非常災害時に備え、土砂災害を想定した避難訓練を実施するなど利用者誘導體制の強化に努めた。  
また、地域防災協力隊と共に消防（避難）訓練を実施したほか、消防訓練後に炊き出し訓練を実施し連携強化を図った。

## 8 実習・ボランティアの受入れ

福祉人材育成の見地から引続き実習生の積極的な受け入れを行った。また、ボランティアの参加については、夏祭りなどの行事を含めて少ない状況が続いている。



## 9 地域社会との連携

地域に開かれた施設として、施設運営に関しても、さらに地域住民と連携し地域との交流促進（各種ボランティアの受け入れ、地域行事への参加（平内町清掃奉仕活動・平内町民文化祭等への参加））に努めた。

また、共生社会の実現と社会貢献に積極的に取り組む必要があることから、平内町地域自立支援協議会、平内町健康・福祉推進協議会、及び地域ケア会議等へは引き続き積極的に参画し、地域の福祉ニーズを把握しながら地域との連携を図った。

## I 障害者支援施設「しらかば寮」

### 1 概況

令和元年度においては、寮の基本理念である「利用者一人ひとりが安心して、明るく楽しい生活が送れるように真心を持って支援します」を実現するために、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じ自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めてきた。

令和元年度の退所者の状況は、3人の利用者が他の施設（介護保険対象等の施設）へ移行し、3人の利用者が肺炎等の疾患により病院で亡くなりました。入所は、さつき寮から比較的高齢の利用者4人、そして医療機関から2人、他施設から1人の計7人が入所となった。

入所利用者の高齢化や身体機能の低下に伴い、褥瘡、転倒、誤嚥等のリスクも高くなっていることから、早期発見、早期対応を心がけるとともに、医療機関との連携による医療ケア、機能低下に伴う介護予防等、きめ細かな支援に努めてきた。しかし、今年度は11人の利用者が入院（内科、消化器科、眼科、外科、整形外科精神科）となり、うち1か月以上の入院者が7人となった。

また、インフルエンザやノロウイルス等の感染症予防対策を重要課題と位置づけ、センターぐるみで重点的に取り組んでいたものの、1月10日から1月28日まで、ほとんどのホーム、うぐいすホーム内において、感染性胃腸炎が発生した。罹患の疑いのある利用者を通院・個室隔離し、他ホームとの交流やご家族の面会自粛要請等の対応で早期の終息を目指したが、結局利用者・職員合わせて20数人が罹患した。ただ幸いにも入院者や重篤者は出ずに終息した。さらに、新型コロナウイルス感染症防止対策として、3月から面会や外出等の制限外部講師等による寮内行事を中止するなど注力して取り組んだ。

職員関係では、年度開始当初は、基準配置数より多い職員数でスタートしたものの、離職者や病気による配置換え、年度途中での法人内事業所への異動等もあって、結局前年度と同様に職員の確保の面で大変苦労した。

研修においては、強度行動障害を有する利用者など、より専門的な支援を必要とする方が増えたことから、適切な支援と個々の障害特性の理解を高めるため、支援者養成研修等に積極的に職員を参加させた。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 利用者の人権尊重、権利擁護及び虐待防止の一層の推進を図る

- ① 職員セルフチェックを毎月行い、自己点検簿を会議等で分析及び振り返りを行い適切な利用者支援に努めた。
- ② 虐待防止及び権利擁護関係の研修に計画どおり参加した。
- ③ 利用者からの苦情相談に対しては、苦情解決実施要綱に基づき、迅速かつ丁寧に対応し解決に努めた。また、苦情解決協議会及び虐待防止委員会を10月と1月に開催した。
- ④ 人権侵害ゼロへの誓い宣言を4月と10月に作成し、宣言書を施設内廊下へ掲示した。
- ⑤ コンプライアンスチェックを年2回実施し、コンプライアンス意識啓発に努めた。

#### (2) 発達障害等の利用者に対する専門性と技術の向上に努め、利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実に努める

外部研修（支援者養成研修、強度行動障害者支援者養成研修）等へ積極的に参加し、適切な支援と専門性を高め、個別支援の充実に努めた。しかし、行動障害が著しい利用者に対し、関係機関によるコンサルテーションを通じて支援方法の見直しを行う予定であったが、支援員不足等により活動が計画どおり行えなかった。

(3) 医療・看護ケアの充実並びに安全の確保、リスクマネジメントの強化に努める

① 利用者の高齢化に伴い、身体機能の低下、疾患にかかりやすい、認知機能の低下など、共通の変化が見られている。特に、転倒、誤嚥、精神不安等のリスクが高くなっているため、支援から介護の視点が必要となる中で、支援員の介護スキル向上が必須となっている。また、生活習慣病とともに廃用症候群出現への対応も課題となっていることから、リハビリ等の機能回復・維持等の日々の取り組みも重要となっている。

年々、健康状態が悪化し通院する件数も増加しており、特に医療機関と連携しながら対応してきたが、残念ながら3人の利用者が肺炎等の病気で亡くなった。

② リスクマネジメントの強化を図るため、急変時の対応について再整備した。リスクマネジメント委員会を毎月開催し、アクシデントレポートを検証、分析し、再発防止に向け支援課会議等で職員へ周知を図った。

(4) 障害や年齢に応じた小グループでの個別活動（趣味、創作的活動、音楽療法士による音楽活動、外出等々）の充実に努め、一人ひとりに合った生活環境の提供に努める  
一人ひとりのニーズや特性に応じた外出（買物外出）、小グループでのドライブ外出を定期的に行った。また、地域交流を兼ねた活動（平内町夏まつり等）へ積極的に参加し個別活動の充実に努めた。

(5) 家族との関係が希薄、疎遠となりがちな利用者等への心理的なサポートと家族等への状況報告、情報提供など連携強化を図る

面会日等を利用し、家族の要望や相談、苦情等に対し真摯に対応した。また4月・10月に全体懇談会を実施し、日常の様子をスライドショーで紹介した。3月に予定していた、全体懇談会については、新型コロナウイルス感染症対策として中止とした。

(6) 適正な職員配置のもと、施設入所支援事業の定員80人を、年間を通しての充足を目指し、積極的に情報発信するなど利用者確保に努めながら経営の安定化を図る

他施設への移行や長期入院等により、年間を通して利用者の欠員が生じたことから、定員充足の目標を達成できなかった。平均利用率は、95.1%だった。

### 3 職員の状況

職名	寮長	課長	主任	副主任 (支援員・看護師)	支援員	看護師	計
職員数	(1)	2	1	3	41	1	48 (1)

### 4 利用者の状況

(1) 入退所の状況

	日中活動	施設入所支援 (再掲)
定員	80人	80人
平成30年度末現在利用者数	78人	79人
令和元年度内退所利用者数	6人	6人

令和元年度内入所利用者数	7人	7人
令和元年度末現在利用者数	79人	80人

(2) 年齢別利用者数

男女別 年齢別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
18～29	11	4	15	1		1	12	4	16
30～39	4	2	6				4	2	6
40～49	4	3	7	2		2	6	3	9
50～59	2	7	9	5	2	7	7	9	16
60～69	1	4	5	12	6	18	13	10	23
70～79				3	4	7	3	4	7
80以上					3	3		3	3
計	22	20	42	23	15	38	45	35	80
平均年齢	36	46.7	41	59.7	68.8	63.3	48.1	56.1	51.6

(3) 障害支援区分別利用者数

男女別 障害支援区分別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
非該当									
区分1									
区分2									
区分3		1	1					1	1
区分4		2	2	3	3	6	3	5	8
区分5	6	5	11	11	4	15	17	9	26
区分6	16	12	28	9	8	17	25	20	45
計	22	20	42	23	15	38	45	35	80

## 5 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、身体機能や生活能力の維持・向上のために必要な支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。また、行動障害が著しい利用者への個別支援、高齢・重度化に伴う身体機能低下の予防や転倒、誤嚥等に配慮した支援を行った。

② 班編成による創作的活動、生産活動の支援の実施

ア 生活リズム班

ADL等の自立度により、年間個別支援計画に沿った活動を行った。体力維持及び健康面に配慮しながら、屋内外の歩行、ライトコートでの日光浴、リズム遊び、体育館で遊具を使用して身体を動かした。また、個人の特性や趣向に応じて音楽鑑賞、創作活動を行った。

イ 介護予防班

利用者のADLや障害特性に配慮し「健康体操」、「全体レクリエーション」「個

別リハビリテーション」「趣味活動」のほか、月3回の音楽療法、月2回のチェアヨガ等を行った。また、屋内外の歩行やライトコートでの日光浴を実施した。

③ 健康衛生の向上

ア 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴い、生活習慣病と共に廃用症候群等の出現への対応が課題となってきた。特に糖尿病、脂質異常を発症する人が増えてきており適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し予防に努めるとともに、生活習慣病を予防するため、肥満者を対象に肥満食を提供し、毎月体重測定と運動の励行を行った。

口腔ケアとして、青森市歯科衛生士会の協力で、利用者の歯磨き及び介助歯磨き、仕上げ歯磨きの講習を行った。

イ 医療状況

嘱託医診療

精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回（第2、第4木曜日）

ウ 検診状況

対象者 全員

検診内容 血液検査、心電図(年2回)、結核検診、尿検査(年1回)  
各癌検診(大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施)

④ 感染症予防対策

手指消毒器を一課、二課に設置して手指の消毒を指導し、毎食後に食堂のテーブル、椅子、手すり、ドアノブ等を除菌ウエットタオルで消毒し、食中毒などの感染症予防を強化した。

各ホームには利用者の医療一覧、感染症発症時対応マニュアル、応急手当マニュアルを備えるとともに、感染予防認定看護師による職員研修を実施するなどし感染症予防対策に努めてきたが、1月中旬に感染性胃腸炎が発生し、利用者、職員20数人が罹患した。

⑤ 通院状況

科別	通院状況		服薬者状況	
	区分	実人員	延回数	実人員
内科		56	548	44
精神科		58	673	58
耳鼻科		1	9	0
歯科		22	166	0
皮膚科		8	19	0
外科		8	38	1
整形外科		18	133	8
眼科		4	15	0
泌尿器科		4	32	2
乳腺外科		3	4	3
呼吸器科		2	5	0
産婦人科		1	1	0
合計		185	1,643	116

⑥ 入院状況

区分 科別	実人員 (延人員)	延日数	病名
内科	2 (3)	126	急性肺炎
整形外科	1	109	左膝蓋骨骨折
精神科	3	227	心因反応、てんかん
外科	3	223	胆管造影検査、大腸癌
消化器科	1	3	PEG交換
眼科	1	3	白内障
合計	11 (12)	691	

⑦ 音楽療法の実施（実施日・場所）

ア 個人セッション（月1回 水曜日の午前・面談室）

一課利用者2人 実施回数11回

イ グループセッション（月3回 火曜日の午前・二課食堂）

一課利用者4人、二課利用者23人 実施回数33回

⑧ チェアヨガ活動

身体機能の低下が顕著となってきたことから、チェアヨガの講師を月2回招き、椅子に座っての簡単なストレッチを行った。身体機能の活性化に加え、講師の動きに合わせて体を動かしながら、コミュニケーションをとることにより、楽しみながら心身機能の向上を図った。

⑨ 個別及びグループごとの外出の支援

買物・外出体験を通して、金銭の使い方、社会のルール、マナーを学んでもらうとともに、個別またはグループで楽しい時間を過ごす事を目的に実施した。

(2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談のほか生活介護等の日中活動と合わせて支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。

② 余暇活動・趣味的活動等の充実

ア 個別及びグループごとの外出の支援

青森市、平内町、野辺地町を中心に買物外出等を計画し実施した。また、個別外出については希望に応じて随時実施した。

イ 招待外出

8月14日、プロレス観覧の招待を受け参加した。

※3月の夜越山洋ラン祭りについては、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

ウ 外部講師による活動の支援

書道 実施日：月2回（第2、4金曜日）18:30～19:30 計18回

参加者：一課利用者1人、二課利用者6人

③ 生活環境の整備

ア リネン・寝具交換

平成24年度から、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。

シーツ等1回/週、タオルケット・肌掛けカバー1回/月、布団カバー1回/月、

掛け・敷き布団1回/年の交換を行った。

イ 洗顔用具等の洗浄、管理

歯ブラシ、コップ、洗面器等を週1回消毒・洗浄し、個々の収納棚に保管するなど、衛生管理に努めた。

ウ 居室等の大掃除

各居室内、食堂の換気扇及びエアコンフィルターの掃除、ライトコートの大掃除を年2回実施した。その他、春の大掃除と年末の煤払いを計画的に行った。委託業者による特別清掃は年6回実施した。

エ 室温等の管理

冬期間の乾燥対策として、各ホームに加湿器等を設置し湿度の調整を行ったことにより快適に過ごすことができた。

(3) 利用者の権利擁護の推進

① 苦情相談システムの利用促進

苦情件数については8件であった。中には苦情ではなく、不安や相談を述べるだけのものもあった。

苦情内容	件数
サービスの質や量(食事内容、サービス提供に関する不満など)	0
利用者間の人間関係など	2
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	0
被害/損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	6
病気/怪我/医療面	0
その他(上記以外のもの)	(相談9)
合計	8(相談9)

② 利用者への情報公開・情報提供の充実

掲示板の活用や口頭での情報提供を行った。また、写真やパンフレット等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用した。

③ 基本的権利行使への配慮

県議会議員選挙及び参議院選挙には、5の方が選挙所へ出向き期日前投票を行った。

(4) 地域交流

夏祭りや総合防災訓練、地域の行事(平内町夏まつり、平内町清掃奉仕活動等)を通して地域との交流を図った。

(5) 家族との連携

利用者が心豊かな生活を営み過ごしていくためには、ご家族の理解と協力が不可欠であるため、第三日曜日に面会日を設定した。また、夏季一時帰省、冬季一時帰省についても可能な範囲で協力をお願いしているが、家族の高齢化も顕著であるため、年々一時帰省も減少傾向にある。

① 利用者個別支援計画

個別支援計画については、その内容をご家族と十分協議しながら設定した。また、支援目標や支援経過についても面会日等を通じて随時家族へ説明し面会が難しい場合は電話等や書面により対応した。

② 保護者全体懇談会

- ア 4月21日（日）保護者全体懇談会（事業計画、運営方針）及び個別支援計画等について実施。
- イ 10月20日（日）支援計画に基づいた支援状況の報告についての個別懇談
- ウ 11月17日（日）なつどまり研究発表会と支援計画等について個別懇談  
※3月8日（日）に予定されていた、保護者全体懇談会については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、毎月リスクマネジメント委員会を開催し、アクシデントレポート等の検証、対策を話し合い支援会議等で職員へ周知した。

事故内容		アクシデント 件数	インシデント 件数
医療関係	急病（救急車搬送等）	0	0
	誤飲・誤嚥	1	1
	誤与薬	7	0
	その他（医療機関への連絡ミス）	0	0
事故関係	転倒・衝突（救急搬送）	0	0
	転倒・衝突（通院・入院）	7	0
	転倒・衝突	68	0
	その他（打撲、飲みこぼし、不明）	72	14
介護関係	転倒（通院・入院）	0	0
	転倒	19	16
	異食	12	5
	残薬、落薬、飲み忘れ	12	19
	その他（バルン抜去、爪切りによる創傷、配薬ミス等）	7	1
外出関係	無断外出（敷地外）	0	0
	集団離脱（敷地内）	0	2
利用者関係	他害	40	1
その他（他室への侵入、自傷、虫刺され等）		24	108
合 計		269	167

(7) 職員研修

事業団事務局が主催する法人内研修や他団体主催の県内外の研修等に参加した。特に強度行動障害基礎研修に8人、実践研修へも4人参加した。

また、なつどまり内での職員研修として、「知的障害・発達障害等について」開催し、障害への理解向上に努めたほか、救命講習会や虐待防止研修会、感染症予防研修会、介護職のための口腔ケア研修会、不審者対応の研修会等を開催し実践に役立つ知識と技術の修得に努めた。また、合同研究発表会においては日頃の支援の研究成果を3題発表し、更なるサービスの向上に努めた。



## (8) 行事の実施状況

内 容	実施期間	参 加	備考(行先など)
春の大掃除	4月27日 4月29日	一課・二課	施設外周及び側溝内の清掃
花見外出	4月28日	二課 17人	夜越山森林公園
ドライブ外出	5月1日	一課 20人	平内町周辺
ドライブ外出	5月2日	一課 14人	平内町周辺
花見会	5月3日 5月9日	二課 一課	さつき寮利用者1人参加
ドライブ外出	6月18日	二課 4人	夏泊半島一周
七夕会	7月5日 7月7日	二課 一課	
ドライブ外出	7月8日	二課 5人	夜越山森林公園
夏まつり	7月28日	全利用者	なつどまり体育館
納涼会	8月21日 9月14日	一課 二課	
障害者スポーツ大会	8月25日	一課 4人	昼食時外食
ドライブ外出	8月26日	二課 4人	
ドライブ外出	9月15日	二課 16人	野辺地町愛宕公園
長寿を祝う会	9月20日 9月26日	一課 二課	
ミニ運動会	9月29日	一課・二課	開所日
ドライブ外出	10月13日	二課 6人	夜越山森林公園
大掃除	10月18日	一課・二課	
ドライブ外出	11月10日	二課 3人	平内町周辺
利用者忘年会	11月29日 12月6日	一課 二課	
クリスマス会	12月20日	一課・二課	
冬の大掃除	12月25日	一課・二課	各居室のエアコンフィルター清掃等
正月っこ	1月6日	一課・二課	
節分	2月2日 2月3日	二課 一課	
大掃除	2月20日	一課・二課	
調理実習	2月24日	一課	
桃の節句	3月3日	一課・二課	
慰労会	3月21日	一課・二課	開所日

## Ⅱ 短期入所事業しらかば寮

### 1 概況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、空室があった場合のみサービスを提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業所を実施した。

### 2 利用状況

利用件数 10 件 延べ日数 22 日間

## Ⅲ 日中一時支援事業

### 1 概況

平内町の委託事業として在宅家族の介護負担を軽減するため利用者に活動の場を提供し見守りや社会適応するための日常生活訓練を行う事業であるが、令和元年度の利用実績はなかった。

### 2 利用状況

利用件数 0 件 延べ日数 0 日間

## IV 障害者支援施設さつき寮

### 1 概況

令和元年度は、利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止について継続的に取り組むとともに、職員相互のリスクマネジメントの強化を図るため、寮内のリスクマネジメント委員会を中心に、各会議において段階的に対策の検討、周知徹底を図った。

また、障害の多様化に対応するため、強度行動障害・自閉症・発達障害等の利用者の特性・支援技術に関する外部研修、内部研修へ積極的に参加し支援の強化に努めた。

生活介護事業においては、ゆとり加工班（古紙分別・ホタテ養殖用品等の作業委託）、加工班（古紙分別・ホタテ養殖用品等の作業委託）、きのこ班（しいたけ栽培）、クリーニング班（衣類クリーニング）の4班体制を継続しながらも、より個々の障害特性に配慮した個別支援にも力を入れた。

令和元年度の入退所の状況は、高齢の利用者4人がしらかば寮へ移行（退所）となり、高齢利用者のしらかば寮での受け入れ傾向は定着しつつある。一方、他の施設等から3人が入所となった。退所の関係で一時的に欠員が生じたものの、迅速に欠員補充することができた。

新型コロナウイルス感染症予防対策では、3月から面会や一時帰省、外出等の制限を利用者及び家族等から了承を得て取り組んだ。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止の徹底を継続する

職員一人ひとりの意識強化に努め、各種会議等においても啓発を強化するとともに、「人権侵害ゼロへの誓い宣言書」に全職員が記人・捺印することで意思表示をした。また、職員セルフチェックによる毎月の振り返りや、毎朝朝会での職員倫理綱領や行動規範を斉唱し、職員へ周知を図った。

#### (2) 家族・保護者への細やかな状況報告・情報提供・連絡調整に努める

体調の変化、怪我等をした場合も含め必要に応じて適宜情報提供を行った。月1回定期的に状況報告を行うほか、懇談会や面会日、帰省時の送迎時には直接家族の方と顔を合わせ細かな情報交換を行った。

また、さつき寮通信を3回発行し、寮内独自の行事や活動等についての情報発信に努めた。

#### (3) リスクマネジメント強化を継続する

毎月アクシデントレポートの検証・分析・対策を段階的に実施した。第一段階として施設入所会議で、その後さつき寮リスクマネジメント委員会で再度検討し、より深く検証した内容を寮会議にてフィードバックし職員への周知徹底を図り、利用者の事故の再発防止に努めた。結果、平成30年度はアクシデント68件であったが、令和元年度は49件であった。

#### (4) 生活介護事業及び入所支援事業の定員60人以上の利用者を通年確保し、安定した黒字収入を継続する

施設入所事業については、年度当初から定員を遵守することができた。令和元年11月1日から令和2年2月18日までの間、定員を下回り59人になることもあったが、それ以外の期間は60人を維持することができた。さらには障害支援区分変更に伴う収入増も行うことができた。

#### (5) エルダー制度・新人育成強化を継続する

エルダー制度の活用に加え、個別の新任職員育成研修プログラムに沿って外部研修

や内部研修へ積極的に参加し、スキルアップに努めた。内部研修の専門分野の内容については、より具体的でわかりやすい実践的な内容をプログラムに取り入れた。

### 3 職員の状況

職名	寮長	課長	副主任	支援員	看護師	合計
職員数	1	1	3	16	2	23

### 4 利用者の状況

#### (1) 入退所の状況

内 容	生活介護	施設入所
定員	60	60
年度初利用者数	62	61
新契約者数	3	3
解除者数	4	4
年度末利用者数	62	60

#### (2) 年齢別利用者数

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19	1				1
20～29	8	3		1	12
30～39	8	3			11
40～49	7	3	1		11
50～59	10	2			12
60～以上	7	8			15
合計	41	19	1	1	62
平均年齢	44.4	50.3	48.0	28.0	46.7
最高年齢	69	80	48	28	
最低年齢	18	21	48	28	

#### (3) 障害支援区分別利用者数

障害支援区分	入所利用者	通所利用者	合計
非該当			
区分1			
区分2			
区分3	3		3
区分4	24	1	25
区分5	24		24
区分6	9	1	10
未判定			
合計	60	2	62

### 5 事業の実施状況

## (1) 日中活動系サービスの実施状況（生活介護）

### ① 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

### ② 開所日の設定

休日開所日については、社会参加（ボランティア等）、余暇活動（映画上映・カラオケ・調理実習等）を中心に実施した。

### ③ 班活動

#### ア ゆとり加工班

加工班から提供を受け、軽作業を実施した。作業内容を固定せず流動的に選択できるようにするとともに、個別のスケジュール等を活用し個々の特性に配慮し、集中して活動に取り組めるよう努めた。

#### イ 加工班

作業意欲はあるものの歩行での移動が難しい利用者に対しては車での送迎を行い、できる限り本人希望の作業班にて活動できるよう配慮した。また、1年を通して作業資材を確保し活動できるようにするとともに、作業工程を細分化し、より多くの利用者の方に役割を与え積極的に参加できるよう取り組んだ。

#### ウ きのこと班

しいたけ栽培を通して、健康増進や体力維持と併せて働く喜びを感じられるよう取り組んできた。しかし、きのこと班を希望する利用者数が減少していることや高齢化による体力の低下により作業効率の低下、利用者一人にかかる負担や仕事量が増えていることが課題となった。

#### エ クリーニング班

体力に自信はないが、衣類をたたむ事ができる利用者がクリーニング作業を行い、働く喜びを感じることで心の安定を図った。

また、なるべく一人の利用者に負担をかけず、利用者全員が同じ作業工程を行うことができるよう、職員がやり方を教えながら見守り、一人で行うことができるよう支援した。

## (2) 居住系サービスの実施状況（施設入所支援）

### ① 夜間におけるサービス提供

入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談・助言のほか、必要な日常生活上の支援を行った。

### ② 余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援のほか、書道教室及びさつき寮祭に向けた作品の作成等、余暇支援を行った。

## (3) 健康管理

### ① 医療状況

医療体制は、嘱託医（精神科）1人と内科医への受診（月1回 引地内科）看護師4人で健康管理の充実に努めた。ほかに、通所部2人の健康管理も含め利用者全般の健康維持の推進に努めた。

緊急時対応として、応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、支援員室に備えるとともにAED（全職員AED講習受講済み）を食堂に備えている。また、誤嚥、のどつまり時対応として、気道閉塞時フローチャートを食堂、支援員

室に張り付け、口腔吸引ノズル付き掃除機（掃除用とは別の掃除機）と吸引器を食堂に設置している。

疾病の早期発見、早期治療として、各癌検診（胃癌、大腸癌、子宮癌、乳癌）の他、結核検診、心電図、血液検査、尿検査、血圧測定を実施した。結核検診、心電図、血液検査、尿検査、血圧測定は施設負担で、各癌検診については、希望を募り本人負担にて実施した。

口腔ケアは、歯科医による往診での歯科検診（しらかば寮と隔年で行い、費用は施設負担）を実施した。歯周病、虫歯予防として食後の歯磨き指導、介助歯磨きを行っているほか、今年度も青森市歯科衛生士会の協力で利用者の歯磨き指導と職員の仕上げ磨き講習を開催した。また、各寮に医療一覧、感染症発症時対応マニュアル等を備え、利用者の健康管理に努めた。

令和元年度は、外出時のマスク着用と帰寮後の手洗いうがいの励行や注意喚起によりインフルエンザ罹患者は出なかった。ノロウイルス、急性胃腸炎については居室及び生活空間に次亜塩素酸水を毎日（11月～5月）噴霧することと、毎食後に除菌ウェットタオルで行う消毒清掃の継続等により発症者は出なかった。

新型コロナウイルス感染所対策としては、職員だけでなく、施設内に出入りする業者に対しても、検温（37.5℃以上は入室勤務不可）や手洗いうがいのほか、アルコールでの手指消毒と衣類への噴霧、マスク着用を徹底した。寮内行事に関しては通常どおり実施したものの、外出行事については自粛した。感染者が発生した際速やかに対応できるよう、N95マスクや保護メガネ、保護用予防衣、シューズカバー、使い捨て手袋、アルコール除菌タオル、噴霧用アルコールを備えている。

利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であるとともに、廃用性症候群による対応が課題となってきている。特に脂質異常を発症する利用者が増えてきていることから、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩、間食のとり方を見直し標準体重に近づけることを目標とした。

また、身体機能低下がみられてきた利用者の支援として、機能訓練の指導、助言を行なった。

ア 嘱託医診療 対象者～全員

精神科（つくしが丘病院） 月2回（第2、第4木曜日）

イ 検診 対象者～全員

血液検査、心電図（年2回） 結核検診（年1回）

血圧測定、尿検査、（年1回）

各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ本人負担）

ウ インフルエンザ予防対策 対象者～全員

インフルエンザワクチンの接種（施設負担）、抗菌マスク、微粒子マスクを用意し、マスクの励行を指導。含嗽剤でのうがい、手洗い、アルコール手指消毒器の使用、換気、大型加湿器による環境整備を行い予防対策に努めた。また、使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し発症時対応に備えた。

エ その他

手指消毒器をホール、廊下に設置して手指消毒指導し、毎食後に食堂のテーブル、椅子、床、手すり、ドアノブ、スイッチ類を除菌ウェットタオルにて消毒清掃を行い食中毒などの感染症の予防対策をした。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、次亜塩素酸水を居室、ホール、ト

イレ、廊下に毎日（11月～5月）噴霧した。また、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、嘔吐物凝固剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、処理マニュアル）を各棟に用意し感染症マニュアルに沿って感染予防に努めた。

② 各癌検診の状況

検診名	要精密検査者	内 訳
胃 癌		
大腸癌	3人	3人とも再検査し異常なし
子宮癌		
乳 癌		
結 核	5人	5人とも再検査し異常なし

③ 通院・服薬者状況

通院状況			服薬者状況	
区分 科別	実人員	延回数	区分 科別	実人員
内科	36	288	内科	22
精神科	43	565	精神科	37
歯科	8	78	歯科	0
皮膚科	6	58	皮膚科	1
外科	4	12	外科	0
整形外科	5	25	整形外科	0
眼科	3	13	眼科	0
泌尿器科	2	26	泌尿器科	2
神経内科	1	3	神経内科	0
血液内科	1	5	血液内科	0
循環器科	1	1	循環器科	0
合 計	110	1,074	合 計	62

④ 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病 名
精神科	1	72	適応障害
外科	2	82	蜂窩織炎、乳腺炎
合 計	3	154	

⑤ 肥満状況

	男	女	合 計
18.5 未満（やせ）	3	2	5
18.5 以上～25 未満（正常）	27	14	41
25 以上～30 未満（肥満1）	10	1	11
30 以上～35 未満（肥満2）	1	2	3
35 以上（肥満3）	0	0	0
合 計	41	19	60

・BMIの数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。

BMI = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

(4) 利用者の権利擁護の推進

相談の受付は本人からの申し出と施設内の意見箱から、毎月1回、第三者委員3人の輪番による体制としている。

令和元年度苦情解決協議会は、前期を令和元年10月30日、後期を令和2年1月30日に実施し、利用者代表、保護者代表出席のもと、事例の内容を協議した。

苦情相談日でのさつき寮利用者からの苦情相談は2件あったが、障害者虐待防止法に準拠した「なつどまり虐待防止規程」における事案は無かった。

(5) 地域交流

① 小中学校・高等学校との交流を実施

日 時	内 容	利用者数	引率者数
5月25日	山口小学校運動会	8人	2人
6月1日	西平内中学校運動会	8人	2人

② 地域への奉仕活動の充実

4月20日 平内町役場が主催する夏泊半島の道路のゴミ拾いに参加した。

10月26日～27日 平内町商工会が主催する平内町民文化祭に参加した。

(6) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、第一段階として支援会議で検討し、その後さつき寮リスクマネジメント委員会で再度検討することで、より深く検証した内容を現場へフィードバックし利用者の事故防止に努めた。

<アクシデントレポートの提出状況>

事故内容		件 数
医療関係	急病（救急車搬送等）	
	誤与薬	
	誤嚥・落菓	4
事故関係	転倒・衝突（通院・入院）	
	転倒・衝突	
	その他	
介護関係	転倒・衝突（通院）	1
	歩行不安定による転倒	25
外出関係	無断外出（敷地外）	
	集団離脱（敷地内）	2
利用者関係	他害・粗暴行為・器物破損	6
その他	打撲・自傷・擦り傷・火傷等	11
合 計		49

(7) 家族との連携強化

① なつどまり育成会との連携強化

6月16日の面会日に育成会の総会を行った。また、11月17日の面会日には、なつどまり研究発表会を開き、保護者へ支援の状況を発表した。

② 家族への情報提供の充実

面会日の通知とともに、さつき寮通信を年3回発行し、生活環境の様子を写真や文章で伝えてきた。また、毎月ケース担当から利用者の保護者へ近況をお知らせするとともに、状況変化等の際には随時連絡を行った。



(8) 職員研修

なつどまり内での学習会や事業団事務局が主催する法人内研修、県内外の研修等に  
参加し、施設職員として必要な知識を習得し、障害への理解向上に努めた。

また、なつどまり研究発表会や毎年12月に青森県立保健大学で開催される研究発  
表会にもさつき寮の研究事例を発表した。

(9) 行事の実施状況

(平成31年)	
4月17日	健康診断
4月20日	平内町清掃ボランティア
4月29日	花見会
(令和元年)	
5月15日	結核検診
5月25日	山口小学校運動会
6月1日	西平内中学校運動会
6月11日	避難訓練
6月16日	なつどまり育成会総会
6月19日	日帰り旅行(津軽方面)
7月11日	一泊旅行(盛岡方面)
8月1日	納涼会
8月7日	青森ねぶた観覧
8月10日	夏季一時帰省(～18日)
8月14日	残留者外出
8月15日	平内町夏祭り
8月16日	お楽しみ会
8月25日	青森県障害者スポーツ大会(陸上)
8月31日	夏の大掃除
9月4日	利用者検診(心電図、採血)
9月7日	総合消防訓練(合同避難訓練)、炊き出し訓練
9月14日	県庁生協展示会
9月17日	一泊旅行(津軽方面)
9月22日	青森県障害者スポーツ大会(ボーリング競技)
9月25日	胃がん検診
10月6日	さつき寮祭
10月8日	乳がん検診
10月24日	日帰り旅行(十和田方面)
11月8日	子宮がん検診
11月9日	紅葉狩り
11月17日	研究発表会
11月18日	インフルエンザ予防接種
11月28日	忘年会
12月7日	冬の大掃除
12月21日	クリスマス会
12月27日	冬季一時帰省(～1月5日)
12月31日	年越し会
(令和2年)	
元旦	お楽しみ会
1月2日	カラオケ大会
1月11日	カラオケ大会
1月18日	餅会
2月1日	節分集会
2月13日	防災訓練
3月10日	日中活動班慰労会

(10) 工賃支給状況

生活介護班活動に従事した利用者全員を対象に、「工賃支給要綱」を定め工賃を支給  
した。(11月・3月は一時金も支給)

(単位：円)

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生活介護工賃	167,730	163,910	162,220	176,630	116,380	132,040	165,280	154,880
支給者数	62	62	62	62	62	62	62	62
項目／月	上期一時金	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合計	月平均
生活介護工賃	313,210	138,560	133,950	137,840	133,200	658,459	2,754,289	3,171
支給者数	62	62	62	62	62	62	868	

## V 短期入所事業さつき寮

### 1 概況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行う。

### 2 事業の実施状況

令和元年度は利用が無かった。

## VI 指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所 障害者総合福祉センターなつどまり「スワンハイム」

### 1 概況

利用者の意思と人権を尊重しながら、自立した地域生活を営むことができるように、計画に基づいたサービスの提供に努め、市町村、関係機関等との連携はもとより、八甲学園サンハウスをはじめとする「あおもりグループホーム連絡協議会」との情報共有並びに支援環境の整備等を行い、安定した事業の運営を図った。

令和元年度は、利用者の社会生活向上と地域生活における交流を推進した。また、当事業所の平成30年度以降の運営計画として、地域特性・事情等を鑑み、段階的に法人内八甲学園グループホームへの利用者の転居等を進める予定であったが、現住する利用者のニーズの変化に伴い、現状維持の3棟体制での運営を行った。

支援の利便性及び利用者のニーズに伴い、令和2年度よりグループホームの管理を障害者支援施設さつき寮から就労サポートセンターはくちょうへ移管する。

### 2 重点事項の実施状況

(1) サービス等利用計画とサービス支援計画（個別支援計画）が適切に連動するようマニュアル等を随時必要に応じて再整備し、適正な利用者支援を構築する

会議を合同開催して、連動するように努めた。マニュアル等の整備については次年度以降に実施する。

(2) 2019年度以降の運営計画に基づく利用者の転居等に関する支援を随時遅滞なく進める

法人内八甲学園グループホームへの利用者の転居等を進める予定であったが、現住する利用者のニーズの変化に伴い、現状維持の3棟体制での運営を行った。

(3) 時期を限らず利用者転居を進める過渡的状況ながらも、年間平均利用率 75%以上を確保する

上記の状況変化により、グループホーム 3 棟において日中活動（通所事業所の利用）と合わせた支援を実施することで、年間平均利用率 75%以上を確保できた。

### 3 職員の状況

職名	管理者	課長	サービス管理責任者	生活支援員	世話人	計
職員数	(1)	1	1	1	6	9 (1)

( ) は他事業管理者兼務

### 4 事業の実施状況

入居定員 18 人で共同生活援助利用者 15 人が利用している。内訳は一般就労者 3 人、就労継続支援 A 型事業利用者 1 人、就労継続支援 B 型事業利用者 11 人である。

#### 利用状況一覧

名称	住所	定員	利用者
スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊 7 2-2	6 人	男 4 人
第 2 スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊 7 9-2 7	6 人	男 1 人 女 5 人
第 3 スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字愛宕 2 9-2 5	6 人	男 4 人 女 1 人
計	3 ヶ所	18 人	15 人

### 5 行事の実施状況

(令和元年)	
5 月 6 日	・お花見会（残留者希望による）
5 月 11 日	・あおもりグループホーム連絡協議会総会
6 月 15 日、16 日	・グループホーム大掃除
6 月 16 日	・なつどまり育成会総会
7 月 28 日	・なつどまり夏祭り
8 月中	・夏季一時帰省
8 月 24 日	・あおもりグループホーム連絡協議会総会
9 月 7 日	・なつどまり通報訓練
10 月 5 日	・あおもりホット音楽祭 （あおもりグループホーム連絡協議会合同）
10 月 6 日	・さつき寮祭
11 月 1 日、2 日	・利用者 1 泊旅行（岩手方面）
11 月 16 日、17 日	・グループホーム大掃除
(令和 2 年)	
1 月 5 日	・グループホーム初詣
1 月 17 日	・グループホーム新年会：（平内町さん平）
2 月 18 日、19 日	・防災訓練①（各グループホームにて） ・防災訓練②（不審者対応）

## VII 相談支援事業所なつどまり

### 1 概況

障害者及び障害児並びにその保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立

した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な相談支援を実施した。計画相談件数は215件であった。

利用者の置かれている状況や環境等に応じた、利用者等の選択に基づいた適切な障害福祉サービス等を、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供し、地域資源との連携及び地域資源の開発を図るとともに、各市町村等との連携を行った。

## 2 重点事項の実施状況

- (1) 法人内外を問わず、関係機関等との連携を強化または継続しながら、利用者の現状と心境に配慮した具体的計画の提案を行う

法人内外及び各関係機関、行政と情報共有等の連携を図り、利用者それぞれの活動・生活の現状等に配慮し、より具体的で現実的な計画の作成・提案を実施した。

- (2) 増減は生じるものの、可能な限り利用件数を保ち、年間ベースでの黒字収支とする月により利用件数の増減も多少は生じたものの、前年度に比べ利用計画・モニタリング報告書作成のための聴き取りの回数が増えたことから、年間の収支差額も黒字を維持した。

## 3 職員の状況

職名	管理者	相談支援専門員	相談支援補助員	計
職員数	(1)	1	1	2 (1)

※ ( ) は他事業所兼務

## 4 事業の実施状況

- (1) 障害種別利用者人数（重複あり）

	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	重症心身障害	他
障害者	213	191	36	20	18	0	0
障害児	2	2	1	0	1	0	0
計	215	193	37	20	19	0	0

- (2) 相談方法（実人員に対して重複あり）

	訪問※1	来所	同行	電話	個別支援会議 ※2	計
件数	434	3	32	28	31	528

※1：行政（各市町村）指定のモニタリング聴取訪問（なつどまり内も含む）含む。

※相談となつどまり内の各寮及び就労サポートセンターさつき、就労サポートセンターはくちょう、共同生活援助事業スワンハイム、共同生活援助事業サンハウス、多機能型事業所はっこうとの月1回の聴き取り会議も含む。

- (3) 利用者別相談件数

	しらかば寮	さつき寮 ※通所含む	スワンハイム	同法人 施設、事業所	他法人 施設、事業所	計
平内町所管	4	9	2	24	32	71
他市町村	70	48	13	7	6	144

- (4) 計画相談請求件数

	サービス等利用計画	モニタリング報告書	計
請求件数	86	340	426

## 第5 青森県長寿社振興センター

### 1 概況

本県の高齢化率は全国を上回る速さで進んでいるが、その8割は介護保険を利用しない“元気な高齢者”である。

その中で、すべての団塊世代が75歳以上の高齢者となる2025年がせまり、「高齢者が生きがいを持ち、介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる」ということがより重要な課題となってきた。

令和元年度も青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を念頭に、「生涯現役で活躍できる社会づくり」、「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」を目指し安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現に向け、生きがいづくり、健康づくり及び仲間づくりに関する事業展開を行った。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 長寿な生活調査発信事業

シニアライター新規登録者数は80人となり目標の40人を大きく上回った。また、元気なシニアの情報発信等に関しても、機関紙の構成内容及び配布場所の見直しを実施し、発信内容の充実を図るとともに認知度を高めた。

#### (2) 介護予防事業での人材育成

介護予防についての職場内研修を実施し、全職員が介護予防に関する基本的知識や技術取得に努めた。介護予防の従事職員は2人体制から全職員が従事する体制に切り替え、講師の多様化により受託先から好評を得た。

#### (3) ホームページ等を活用した事業展開

ホームページのアクセス数は前年度の約1万件から約1万2千件に伸ばしたが、目標としていた1万5千件には、至らなかった。なお、ブログは事業周知について例年より多く更新したことにより、アクセス数が約2千件伸びた。

### 3 職員の状況

職名	所長 (専務理事兼務)	主任 事務員	事務員	計(人)
職員数	1	1	6	8

### 4 事業の実施状況

#### (1) 組織作り事業

##### ① 全国健康福祉祭派遣事業

生涯スポーツ、文化活動、健康や福祉の多彩なイベントを通じ高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力のある長寿社会の実現に寄与するため和歌山県に青森県選手団を派遣した。

会期	令和元年11月9日(土)～12日(火) ※本県は前泊のため8日(金)出発
開催地	和歌山県(和歌山市ほか)
派遣内容	・スポーツ交流大会(9種目) ・ふれあいスポーツ交流大会(5種目) ・文化交流大会(2種目)

	・その他（シンポジウム、美術展出品）
派遣人数	100人（選手97人、役員1人、事務局2人）
選考方法	前年度シニアフェスティバルスポーツイベント上位入賞者より選考。 当センターで選考が難しい種目は該当する競技団体に推薦してもらい決定。

② 第21回あおもりシニアフェスティバル開催事業

県内高齢者の文化活動、スポーツ活動等の祭典とし、健康増進、社会参加及び世代間交流の促進を図り、みんなが輝ける長寿社会づくりを目的とし開催した。

ア 総合開会式・文化イベント

開会式	令和元年9月14日（土）
会場	県民福祉プラザ
内容	総合開会式及び高齢者知事顕彰状贈呈、文化イベント
来場者数	約1,000人

イ スポーツイベント（14種目）開催内容

開催日	令和元年9月22日（日）※グラウンド・ゴルフのみ10月6日（日）
会場	新総合運動公園、青森市スポーツ会館、ヤクルトスイミング、青森駅前商街、十和田パノラマパークゴルフ場、六戸町総合運動公園
内容	ラージボール卓球、テニス、ソフトテニス、ゲートボール、ペタンク、なぎなた、剣道、ターゲットバード・ゴルフ、バウンドテニス、弓道、水泳、ウォークラリー、パークゴルフ、グラウンド・ゴルフ
参加人数	1,312人

③ 第10回冬季スポーツイベント

冬のスポーツを通し、高齢者の健康増進及び社会参加の促進を図り、ふれあいと活力のある長寿社会の形成に資するために開催した。

ア カーリング交流大会

開催日	令和元年12月4日（水）
会場	青森市スポーツ会館
内容	1試合3エンド45分のトーナメント式
参加人数	31人

イ スキー交流大会

開催日	令和2年1月25日（土）
会場	大鱈温泉スキー場
内容	タイム申告制レース
参加人数	39人

(2) 長寿な生活調査・発信事業

① シニアライター研修会

高齢者等の生活習慣・生活スタイルを調査・収集する通信員を育成するため開催した。

地区	開催日	会場	内容	養成数
五所川原市	7月19日（金）	五所川原市中央公民館	基礎研修	17人

青森市	7月22日(月)	県民福祉プラザ		21人
十和田市	7月29日(月)	十和田市東コミュニティーセンター		21人
むつ市	7月30日(火)	むつ市海老川コミュニティーセンター		21人

② シニアライターフローアップ研修会

育成した通信員へのフォローアップを実施するため開催した。

地区	開催日	会場	内容	養成数
青森市	2月3日(月)	五所川原市中央公民館	事例発表	14人
五所川原市	2月10日(月)	県民福祉プラザ		10人
十和田市	2月13日(木)	十和田市東コミュニティーセンター		11人
むつ市	2月17日(月)	むつ市海老川コミュニティーセンター		9人

③ 機関誌あすなる倶楽部発行

通信員(シニアライター)等が収集した情報及び県内高齢者等への暮らしの情報提供等を紹介・広報し県民の健康意識の向上に役立てるため実施した。

発行回数	年4回(6月、9月、12月、3月)
発行部数	4,500部
内容	通信員(シニアライター)提供の高齢者の生活スタイル等の情報及び関係機関等の高齢者への情報の発信。

④ 広報活動

当センター事業内容についての事業紹介を行うため、パンフレットの作成及びホームページの運営を行った。

パンフレット作製部数	5,000部
ホームページアドレス	<a href="http://www.choju-aomori.or.jp">http://www.choju-aomori.or.jp</a>

(3) 令和元年度青森シニアカレッジ運営

高齢者に体系的な学習等の場を提供することにより、生きがいのある生活基盤の確立と健康の保持・増進に役立てると共に、地域活動の担い手を養成することを目的とし開催した。

① シニアカレッジ講座

開催場所	県民福祉プラザ
開催回数	17回
受講数	110人(一般教養、地域活動実践)
内容	一般教養、健康と生活、地域歴史文化、クラブ活動等
その他	コロナウィルス感染防止拡大措置の観点から修了式を中止とした。

② 学校企画運営委員会の設置

開催回数	10回
内容	カレッジ運営の意見収集、自主活動推進等
委員数	7人

③ 修学旅行

行先	山形県内
----	------

期 間	令和元年 8 月 26 日（月）～8 月 28 日（水） 2 泊 3 日
参 加 者	26 人（受講 24 人、事務局 2 人）
内 容	受講生の交流と世界遺産等を見学し学習意欲を高める。

④ カレッジ祭実施

開催場所	県民福祉プラザ
開催日	令和元年 10 月 8 日（火）
内 容	受講生の自主活動とし学校企画運営委員会で開催した。

⑤ 通信教養コース「青森長寿セミナー」

放送媒体	R A B 青森放送
放送回数	年間 12 回（毎月最終土曜日 6 時 30 分からの 30 分間）
内 容	生きがいにづくりに関わる内容をラジオ放送で県内へ発信した。 テキストを作成し学習意欲の向上に努めた。
受講者数	63 人

(4) 仲間づくり事業（自主事業）

① 元気なシニア総合サポート事業

仲間づくり支援相談員を配置し適切な指導及び助言を行い、健康づくり活動等を行うサークルの情報集及び提供を行った。

② あすなろ友の会支援事業

高齢者自主活動組織「あすなろ友の会（会員数 700 人）」に対し、助言及び情報提供を行った。

また、幹事会事業である「あすなろ遊学の旅」事業を実施した。

開催日	令和元年 11 月 27 日（水）～28 日（木）
開催場所	下北地区
参加者数	63 人

(5) 介護予防事業

市町村から受託し、高齢者が要介護状態若しくは要支援状態になることの予防を目的として実施した。

委託先	五所川原市、大鰐町
回数	五所川原市 46 回、大鰐町 71 回
内 容	運動機能向上、栄養改善、口腔ケア、認知予防、閉じこもり防止

5 職員研修

職員の資質向上を図るため、一般財団法人長寿開発センター及び関係各機関の開催する研修会に参加した。



## 第6 青森県発達障害者支援センター

### 1 概況

当センターは、平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の附置施設として開設し14年目を迎えた。発達障害者支援センター運営事業の4つの柱である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」のほか、地域の精神科医師による「医療相談」及び、当センター事業で養成したペアレントメンターによる傾聴事業を実施した。また、「青森県発達障害者支援体制促進事業」「青森県発達障害者支援体制整備事業」についても、各事業計画に基づき実施した。

各事業とも、概ね計画目標を達成することができたが、年度末においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業を中止とし、未実施（未達成）の事業も生じた。中止となった事業は下記のとおりである。

連絡協議会	(1) 第2回東青地区連絡協議会 (2) 第2回下北地区連絡協議会
主催研修会	(1) 医療従事者を主な対象とした発達障害医学研修会（支援者対象） (2) 発達障害のある女性への支援をテーマとした研修会（県内全ての方対象） (3) 思春期の自閉スペクトラム症への性教育研修会（支援者対象） (4) ト라우マ研修会（支援者対象）
主催事業	(1) 医療相談 (2) ペアレントメンターによる傾聴事業

### 2 重点事項の実施状況

(1) 地域の各関係機関等と連携、協働し、発達障害のある方及び家族を支援する

#### ① 地域の他機関との連携強化

- ・連絡協議会：東青地区1回、下北地区1回、計2回開催。  
(未達成 ※目標：各地域2回実施)
- ・各連絡協議会参加機関（幼児期～成人期支援機関）計20機関以上の関係機関の参加あり。
- ・医療相談：4件実施。(未達成 ※目標：5件実施)
- ・ペアレントメンターによる傾聴事業：5件実施。
- ・相談者について、各地域の関係機関に協働を依頼し、多職種連携による支援を実施した。

#### ② 個人情報保護の徹底

- ・第3者と情報を共有することが必要な際、事前に個人情報同意書を必ず得ることを徹底した。
- ・相談者記録等を保管する書庫管理（施錠・鍵の管理）、書類及びデータの取扱い等、対応策をまとめ、職員間で徹底した。

(2) 県内3か所ある発達障害者支援センター間で協働し、県内の発達障害支援体制整備を促進する

- ① 年2回（4月、9月）3センター及び県障害福祉課との情報交換会の実施。
- ② 県内発達障害者支援センター職員を対象とした勉強会実施（9月）。
- ③ 他2センターへ、当センター主催研修会への事業運営協力依頼を行い、併せて研

修受講も行ってもらい、発達障害者支援センター職員が知識や技術を学ぶ機会として位置付けた。

- ④ 他センター相談内容への助言及び協働による支援を実施。

(3) 地域の関係機関及び関係施設等の職員の人材育成を通じた地域の拠点作り

- ① 東青地区、及び下北地区で人材育成を目的とした支援者対象研修会を、東青地区・北地区で計 17 回開催。

主な事業として、

- ア アセスメントに関する研修会 (23 人受講)
- イ 吃音に関する研修会 (259 人受講)
- ウ CARE プログラム研修会 (32 人受講)
- エ 精神保健に関する研修会 (117 人受講)
- オ 発達障害支援公開講座 (288 人受講)
- カ 家族への支援について (93 人受講)
- キ 発達障害基礎研修会 (29 人受講)
- ク ペアレントメンター養成講座 (4 人受講。内新規受講者 1 人)
- ケ ペアレントメンターフォローアップ事業 (9 人受講)
- コ ペアレントメンター勉強会 (15 人受講)
- サ 子どもの育ちに関する研修会 (80 人受講)

他 6 回、研修事業を開催した。

- ② 講師活動を 57 回実施。  
青森県警・警察学校・青森地方裁判所・県看護協会・教育・福祉・労働等、多様な機関のニーズに対応した。
- ③ 機関訪問支援を年 24 回実施。(未達成※目標：30 回以上)  
保育園・幼稚園・小学校・特別支援学校・放課後等デイサービス等、多様な機関のニーズに対応した。
- ④ 医療従事者を主な対象とした研修会未実施 (未達成※目標：1 回実施)
- ⑤ 各地域で研修事業を開催する際、自治体及び地域の関係機関へ事業協力依頼を行い、協働で事業を実施。各地域で開催する研修会では、当センターで養成した支援者に講師を務めてもらう等、人材育成を通じた地域の拠点作りを行った。

(4) 地域住民への発達障害についての理解と普及啓発

- ① 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間を青森市、むつ市で開催。
- ② 地域住民を対象とした発達障害啓発研修会を東青地区(外ヶ浜町) 1 回、下北地区(風間浦村) 1 回実施。
- ③ 各地域での研修会について、自治体に事業連携依頼を行い協働した。各地域の広報誌に研修事業の情報を掲載してもらう等、地域に根付いた周知を行い、地域住民や保護者、関係者等、多くの人に参加した。
- ④ 各地域の研修会では、併せて個別相談会を会場で実施し、地域保健師、相談支援事業所等関係機関と協働で対応。地域の家族、支援者等関係者に対し、専門的な知見から必要なアドバイス、情報提供等を行い、地域の相談支援体制の整備や、遠隔地域との連携を促進することができた。

(5) 北海道・東北ブロックをはじめ、全国の発達障害者支援センター等との連携

- ① 全国発達障害者支援センター連絡協議会（横浜市）へ職員1人参加。発達障害児者支援施策に関する国の動きや、最新の知見について学ぶと共に、全国の発達者支援センターと情報交換を実施。
- ② 北東北3県発達障害者支援センター情報交換会（秋田市）へ職員3人参加。当センターより実践発表を行った。
- ③ 当センターで主催する研修会について、北海道・東北ブロックに都度周知を行い、他県発達障害者支援センター職員の受講があった。情報発信及び情報共有に務めた。

(6) センター機能強化並びに職員の専門性とマネジメント力の向上

- ① 職員の専門性の向上を目指し、年間71回の研修を受講し（各職員年間5回以上研修受講）、発達障害に関する知識及び技術の向上に努めた。
- ② 毎月1回、外部臨床心理士による勉強会及びスーパーバイズを実施。
- ③ 毎週金曜日、当センター職員ケース会議を実施。行事等により実施できない週があった。（未達成 ※目標：週1回実施）

### 3 職員の状況

職名	センター長	副主任支援員	支援員	計
職員数	1	1	2	4

### 4 事業の実施状況

事業内容		実績	
① 発達障害児（者）及びその家族等に対する相談支援・発達支援		実支援人員	601人
		延支援件数	936件
② 発達障害児（者）に対する就労支援		実支援人員	120人
		延支援件数	191件
③ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	ア センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	17回
		延参加人数	983人
	イ 外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	57回
		延参加人数	1,750人
	ウ 教育関係者との合同研修会	実施回数	11回
		延参加人数	727人
④ 関係施設・関係機関等の連携	ア 連絡協議会開催回数	実施回数	2回
	イ 調整会議	実施回数	19回
	ウ 機関コンサルテーション	実施件数	24回
	エ 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	5回
	オ 他の協議会への参加状況	参加回数	24回
⑤ 地域住民等に対する普及啓発	地域住民向け研修会の開催等	実施回数	5回
⑥ 職員の研修派遣状況		参加回数	71回

## 第7 ライフサポートあおば

### 1 概況

ライフサポートあおばは、知的障害や発達障害またはその疑いのある児童が地域で当たり前に生活できることを目指し、現在は桜川・千刈・松森地区にて3つの障害児通所支援事業と1つの委託事業等を運営している。実施事業は、以下のとおりである。

- (1) デイサービスセンターあおば（青森市桜川地区）
  - ・児童発達支援事業…未就学児童への通所支援
  - ・放課後等デイサービス事業…就学児童への通所支援（発達障がい児向け）
  - ・保育所等訪問支援事業…保育所等へ出向いての支援・助言等（個別給付）
- (2) デイサービスセンターすこやか（青森市千刈地区）
  - ・放課後等デイサービス事業…就学児童への通所支援（主に小学・中学生）
- (3) チャレンジサポートすこやか（青森市松森地区）
  - ・放課後等デイサービス事業…就学児童への通所支援（主に中学・高校生）
- (4) 障害児等療育支援事業（青森市からの委託契約）
  - ・訪問相談・外来相談・施設支援（幼稚園・保育園・学校・福祉施設等）
- (5) すこやか生活塾
  - ・独自の法人自主事業…八甲学園親子療育との連携

### 2 重点事項の実施状況

- (1) 個別支援計画策定プロセスの遵守と関係機関連携体制の構築  
個別支援計画策定に係るアセスメント様式を整備し、個別支援計画（案）について職員へ周知ののち、保護者への説明を行った。但し、上半期に新規契約者の計画作成が次月に持ち越しになったケースがあり、下半期以降、体制の見直しを行った。  
関係機関とは相談支援専門員が開催するサービス担当者会議へ参加するなど情報共有に勤めたが、関係機関連携加算は未取得であった。
- (2) 顧客満足・職員満足の維持向上と経営満足の向上（継続できる状態）  
利用満足度調査の結果は、前年度と同じ様式を用いたが、数値は微減であった。面談機会や支援の質などの項目で低評価となり、改めて個別支援計画の質と利用目的の説明が必要であることを確認した。  
職員向け人材育成計画を作成し、助言・指導を行った。自己研鑽について希望する職員もおり、時間的援助や情報の提供を行った。  
単年度拠点損益額は目標とした総収入額の3%を上回った。
- (3) 地域・関係機関との交流機会の確保（地域に向けた広報活動の実施など）  
地域交流会を実施し、地域ニーズの把握に努めた。この他、依頼による講義等は、福祉系大学から15回、青森市自閉症児者を持つ親の会から15回、県障害福祉課から6回、障害者支援施設から4回、保育関係団体から2回、その他任意団体から2回、職員を派遣した。
- (4) 防犯・防災体制の確立  
防犯及び防災マニュアルを作成し、周知した。防犯については各事業所にて避難訓練を2度実施した。防災については次年度実施予定である。
- (5) デイサービスセンターすこやかの移転等検討  
不動産業者等へ協力を要請するなど、物件情報を収集し、事務局へ報告の上、検討を重ねた。

### 3 職員の状況

職名	センター長	主任事務員	主任支援員	副主任支援員	支援員	計
職員数	1	1	1	2	14	19

### 4 職員研修

- (1) 職員個々への「人材育成計画」を作成。OJT・スーパービジョンを体系化し、計画的な職員の育成に努める。(ミーティング・会議・内部研修・個別面談を含む。) ライフサポートあおば独自で作成した「人材育成計画書」様式に、「職員に求めるもの」を踏まえた職員の個人目標と職場における育成計画を記載し、これを用いてOJT・スーパービジョンを意識付けし、年3回の所属長面談にて達成度の確認を行った。また、事業所の実態に合わせて支援会議等で内部研修を実施した。
- (2) 事業推進に必要な技術・資格等の取得に努める  
相談支援初任者研修へ1人(演習)、強度行動障害支援者養成研修へ3人(基礎3人・実践1人)、自閉症の理解と支援技術に関する連続講座へ7人(基礎4人・中級3人)、個別支援計画の運用に関する研修へ2人、コミュニケーション支援の専門研修へ3人、自閉症者の就労支援に関する研修へ1人派遣した。
- (3) 外部研修会への参加を計画的に実施する(虐待・リスクマネジメント含む)  
権利擁護(虐待防止関連・個人情報保護等)、リスクマネジメント(交通安全・看護技術等)へ職員を述べ43人派遣した。この他、虐待防止研修は事業所内全支援員対象の内部研修を1回実施した。
- (4) 研修内容の復命機会設定による情報の共有。  
復命書の全職員回覧のほか、毎月の支援会議にて、内部への伝達研修を行った。

### 5 行事予定

年間行事予定にそって概ね行事を実施した。

### 6 健康管理

毎月の運営会議・支援会議など、その都度感染予防及び健康管理について指導・マニュアルの徹底を促した。

### 7 安全・防災管理

- (1) リスクマネジメントについての検討機会を設定(月1回)  
毎月の支援会議・運営会議内において、インシデント及びアクシデントについて報告し、再発防止策等について検討した。
- (2) 月1回の避難訓練実施(火災・地震・防犯等を想定)  
各事業所で毎月1回避難訓練を実施した。
- (3) 自主点検・法定点検の実施。  
各事業所にて担当者が危険箇所と消防設備の自主点検をすることとし、月1回報告した。消防設備の法定点検は、設備業者に委託し実施した。

### 8 ボランティア・実習等の受入れ

青森県立保健大学・青森大学より実習生6人を受入れた。(年度末に計画したJICA派遣予定者研修の受入は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。)

## 9 地域との連携

共生社会・インクルーシブ社会の実現に向け、他団体と協働した。また、各事業所にて近隣地域の清掃活動などを定期的を実施した。

## I 児童デイサービスあおば

### 1 概況

発達支援を必要とする児童（主に発達障害児）を対象に、本人のニーズと家族の要望から、アセスメントを行い、本人の特性と発達段階に沿った個別支援計画を作成し、日常生活において自ら気づき、行動できるための支援を行った。日々の支援は、個別支援計画に基づいた目標を掲げ、達成に向けてのこととした。

児童発達支援事業では、集団活動として月3～4回のイベントを設定し、季節の行事として、水遊び、遠足、豆まき、卒園式等を行った。それぞれのお子さんの理解度や発達段階に合わせ、コミュニケーション・適切な行動についての支援を行った。また、保護者見学会を開催し、支援中の様子についても見てもらい、家庭とのさらなる連携を行った。

放課後等デイサービスでは、個々の児童に応じた個別支援計画を基に、1対1の個別セッションで、支援を提供した（コミュニケーション・感情・ソーシャルスキルの習得等。）。ただし、進級に伴う環境変化により、利用回数が減少している児童もいたため、2月末に説明会を開き、他の事業へ移行を提案した。

児童発達支援・放課後等デイサービスのいずれも、他療育機関及び関係機関への訪問や電話でのやりとりを通して、関わり方等について提案し、協働・連携を行った（保育所等訪問支援事業の活用を含む。）。ただし、新型コロナウイルス感染拡大抑制の影響で、3月末までに就学に関する機関連携を実施できなかった（次年度4月に実施。）。また、家庭との連携に関しては、連絡ノートのやり取り、問い合わせに応じた個別相談を受け、特性や発達段階の説明・家庭で可能な方法の提案等を行った。

業務に関しての細かい改善点がある場合は、会議等で議題を出し、話し合った。また、それを基に各エリア担当の通常業務について整理した。しかし、今後も意見を出しやすい雰囲気づくりや会議の運営方法などの見直しが必要である。

### 2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
児童発達契約者数	8	8	8	9	10	10	10	10	11	11	12	13	
営業日数	17	19	20	22	19	19	21	20	20	19	18	21	235
延べ利用人数	110	122	127	133	139	130	150	144	134	151	148	176	1,664
放課後等デイ契約者数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	10	
営業日数	15	19	20	22	19	19	21	20	20	19	18	19	231
延べ利用人数	28	32	33	40	31	30	37	35	35	34	34	36	405
保育所訪問契約者数	15	15	15	15	14	14	13	13	12	12	12	12	
延べ利用人数	1	1	0	1	0	0	0	0	3	1	0	1	8
延べ利用人数合計	139	155	160	174	170	160	187	179	172	186	182	213	2,077

## Ⅱ 児童デイサービス事業すこやか

### 1 概況

青森市内に住む知的障害、発達障害を有する小・中学生に対し、生活に必要なスキルを習得するための支援を実践した。

契約者の内訳は、総契約者 26 人中、小学生が 19 人 (73.1%)、中学生が 7 人 (26.9%)、青森第二養護学校在籍児が 18 人 (69.2%)、特別支援学級等在籍児が 8 人 (30.8%) であった。

本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談の他に、家庭・学校・関係機関との連携を行った。

令和元年度は、16 人の児童保護者、関係機関から新規利用希望の相談を受け、見学の対応や障害児等療育支援事業への引継ぎなどを行った。令和 2 年度からの新規契約となったケースについては、令和元年度中にアセスメント及び契約内容の説明等を行い、個別支援計画案の作成を行った。

家庭支援の機会の確保として、面談の実施と意見箱の設置を行った。意見箱については、保護者懇談会や事業所のホームページ上でもお知らせした。今後、面談機会の更なる検討を行う。

地域での活動の実施として、夏休み中にラッセランドへ外出した。1 週間を通して 6 人前後のグループで活動し、絵カードなどの手がかりを活用しながらねぶたの見学や、自動販売機でのジュースの購入などを実施した。

### 2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	28	27	27	28	28	28	28	27	27	27	26	26	
営業日数	20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	240
登校日利用	156	202	195	149	82	201	211	223	156	142	177	9	1,903
学休日利用	66	1	7	72	121	9	9		60	55	7	187	594
延べ利用人数	222	203	202	221	203	210	220	223	216	197	184	196	2,497

## Ⅲ チャレンジサポートすこやか

### 1 概況

青森市内に住む知的障害、発達障害を有する中学・高校生に対し、成人期の生活に必要なスキルを習得するための支援を実践した。

契約者の内訳は、総契約者 26 人中、中学生が 4 人 (15.4%)、高校生が 22 人 (84.6%)、青森第二養護学校在籍児が 20 人 (76.9%)、青森第一高等養護学校在籍児が 6 人 (23.1%) であった。

2 月中には高卒児の移行支援会議に参加した (3 ケース)。3 月に予定していた移行支援会議 (4 ケース) は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

成人期の生活に必要なと想定される作業・活動・余暇の提供種目を各 5 種目検討し活用した。1 対 1 のセッション場面で新たな活動 (作業、製作及び余暇活動等) を教え、自立場面での活動に般化した。

本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談の他に、学校や事業所へ伺ったのが3ケースあった。また卒業した利用者及び家庭とも継続的な関りを持ち相談に応じることがあった。

## 2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	
営業日数	20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	240
登校日利用	178	232	181	163	96	181	229	237	171	162	206	12	2,048
学休日利用	61	5	12	86	121	11	7	0	67	72	12	191	645
延べ利用人数	239	237	193	249	217	192	236	237	238	234	218	203	2,693

## IV 生活塾事業

### 1 概況

令和元年度は事務局主導のもと、八甲学園デイサービスセンターはっこうで実施する「親子療育」の受給者証未取得者のサービス提供を当事業で実施することとした。

### 2 利用状況

希望者がなく実績はなかった。

## V 障害児等療育支援事業

### 1 概況

青森市より当事業団が「障害児等療育支援事業」の委託を受け、ライフサポートあおばにて担当した。令和元年度は保育園・認定こども園等からの直接依頼が増加した。

### 2 利用状況

#### (1) 事業内容別延べ実績数

事業内容	件数
訪問による療育指導	47件
外来による専門的な療育相談・指導	37件
療育技術の指導	114件
計	198件

#### (2) 年代別延べケース数

事業内容	未就学	小学生	中学以上	計
訪問による療育指導	17	20	12	49
外来による専門的な療育相談・指導	22	8	7	37



療育技術の指導	143	11	1	155
計	182	39	20	241

※（１）は実施回数、（２）はケース数である。１回の巡回で複数ケースを対応することもあるため、合計数は合致しない。

## 第8 就労サポートセンターさつき

### 1 概況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業及び就労定着支援事業を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や一般就労に必要なスキル習得への支援を行い利用者の確保に努力した。

生産活動は、農産・請負班、清掃・請負班及びリサイクル班の3班体制で実施した。特に、農産・請負班の水稻事業では、作付面積拡大計画に基づき、水田耕起及び播種は順調に進捗したが、5月の気温上昇により育苗が困難を極め、例年並みの作付面積となった。収穫量は約39トン（約660俵）となり、昨年40トン（約670俵）をわずかに下回った。このうち、主力品種である「まっしぐら」は、10a当（1000㎡・1反）9俵を収穫した。リサイクル班は、農産・請負班と連携して、1月から薪の生産に取り組んだ。トラック1.5系統で空き缶を回収するよりも1系統に集約縮小し、薪生産に取り組むことで収益性を高め、令和2年度中に回収先の縮小を図ることとする。清掃・請負班においても、事業所清掃終了後はほたて養殖用資材加工のほか薪生産に取り組んだ。

就労支援事業収入全体では、農産・請負班及びリサイクル班の収入減少が大きいが、その他の経費節減により利用者の工賃は増額することができた。

地域貢献等については、近隣住民との積極的な交流活動をはじめ、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れ地域と一体となり事業を展開した。

契約者数に対する利用率は、就労移行支援事業において95%に達したものの、その他の事業利用者の利用日が低迷し、全体で86%となった。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 生産活動の安定運営及び規模拡大

拡大予定水田の耕起及び播種までは順調に終了したが、水不足のため水田に水が入らず、また、5月の高温により苗の成長が止まらなかったため、定植に至る苗の育苗が困難を極めた。このため、予定していた作付面積拡大ができなかった。

リサイクル班では、アルミの単価減少が収入額に大きく影響したため、閑散期の生産活動として薪の生産に取り組み、安定生産の体制を構築できた。

清掃・請負班では、通常の事業所清掃のほか、薪の生産に取り組むことができた。

#### (2) スポーツ活動の推進

5月3日夜越山クロスカントリー、5月19日菜の花マラソン、11月2日メイプルマラソンに出場したほか、8月25日には青森県障害者スポーツ大会に参加した。また、土日開所日において、ボウリング、ポッチャ、バスケットボール及びフットサルを取り入れ、多様なスポーツを体験する機会を図ったほか、8月17日の大運動会にはプロサッカーチームのラインメールを招聘し、プロスポーツ選手とともにイベントを楽しんだ。

#### (3) 利用者獲得のための活動促進

① 特別支援学校のイベントには積極的に参加したほか、当事業所のイベントにも生徒及び保護者に参加していただいたことで、新規利用者（新卒）3人の獲得につながった。

- ② 卒業生の活躍ぶりを掲載した広報誌を学校へ郵送し在校生にPRした。また、実習生はすべて受け入れた。
  - ③ ホームページを定期的に更新し、広報紙も定期的に発行した。
  - ④ 中級障害者スポーツ指導員の資格を持つ職員が全国障害者スポーツ大会卓球競技の監督に任命され、大会に同行し参加者にPRすることができた。
- (4) 放課後子ども教室推進事業の特色化  
 新型コロナウイルス蔓延防止対策の一環で令和2年2月下旬から小学校が休校となったため、急遽、こども教室を朝から開設することとなった。朝から、かつ、多人数のこどもを受入れでき、長時間の預かりもストレスフリーで実施できるのは、元小学校校舎を活用して障害福祉サービスを提供している当事業所の特色であり、町のこども教室事業に貢献することができた。
- (5) 利用者工賃の向上  
 給食班を休止したこと及びアルミの単価が減少したことにより生産活動の収入が減少し、大幅な工賃向上はできなかったが、18,133円/(1人月額)で前年度より上回った。
- (6) 地域貢献活動の実施
- ① 4月から10月までの月1回、だいすき海岸の清掃には職員3人が参加し、4月20日には県道なつどまり線清掃活動及び茂浦清掃活動に参加した。
  - ② 平内町主催の「ほたて海道トンネルマラソン」開催にあたり、開会式場及び休憩所として施設を開放した。
  - ③ 当事業所行事「大運動会」及び「大収穫祭」に、地域住民の参加を呼びかけ交流を図った。
- (7) 学校教育への協力  
 8月30日には、平内町立山口小学校の社会科見学を受け入れし、所長が障害者の実態や障害の理解、多様性について講義した。
- (8) 助成制度の活用  
 丸紅基金へ田植え機、清水基金へ乾燥機及び建屋増築、郵便事業へコンバインを助成申請し、このうち清水基金より乾燥機及び建屋増築が採択された。
- (9) 福祉サービス第三者評価の受審  
 令和元年6月26日から9月3日までの間、訪問調査を含め、第三者評価を受審した。質の向上に取り組む体制を機能させるために、月1回「質の向上推進会議」を開催し、定期的かつ継続的な評価分析、課題把握及び改善のための取り組みを実行した。また、職員の教育研修に関する基本方針及び計画を策定した。

### 3 職員の状況

職名	所長	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	労務員	運転員	合計
職員数	(1)	2	4	2	3	1	4	16

※所長は事務局長が兼務しているため、合計には含んでいない。

#### 4 利用者の状況

(人)

区分	就労移行支援事業	就労継続支援B型事業	就労継続支援A型事業	就労定着支援事業	合計
定員	6	15	10		31
年度当初利用者数	5 (男4・女1)	16 (男12・女4)	5 (男5・女0)	3 (男3・女0)	29 (男24・女5)
年度末利用者数	9 (男7・女2)	16 (男12・女4)	6 (男5・女1)	3 (男3・女0)	34 (男27・女7)

平均年齢(令和元年度末)＝全体：35.1歳(男性：35.3歳・女性：34.5歳)

#### 5 事業の実施状況

##### (1) 事業概要

###### ① 就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、職場実習や一定期間の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。

期間	人数	実習場所
2月26日	5	平内町立山村開発センター

###### ② 就労継続支援A型事業

一般企業等での就労が困難な方に、雇用して就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

###### ③ 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

##### (2) 生産活動の売上状況

(円)

班名	令和元年度(A)	平成30年度(B)	前年比(A-B)
農産・請負班	9,175,154	9,974,179	△799,025
清掃・請負班	753,600	0	753,600
リサイクル班	6,236,032	7,590,176	△1,354,144
給食班	0	2,606,400	△2,606,400
計	16,164,786	20,170,755	△4,005,969

##### (3) 工賃及び賃金の支給状況

区分	就労移行支援		就労継続支援B型		就労継続支援A型	
	延人数(人)	支給金額(円)	延人数(人)	支給金額(円)	延人数(人)	支給金額(円)
年間合計	1,478	1,172,180	3,329	2,681,437	1,353	5,767,134
1人当たり月平均額		20,041		18,133		81,277

##### (4) 就職に向けた取組

9月27日に就職面接会に参加したほか、職場実習等を通じて、一般就労に向けて積極的に取組んだ結果、次年度から1人が一般企業(個人事業主)に採用されることが決定した。

(5) 余暇支援等（行事関係）

月	レクリエーション（土日開所）	地域交流活動等
4月	◎青森県動物愛護センター＜行き先不明謎のツアー＞（13日） ◎夏泊清掃・保護者会（20日）	◎塩釜神社春祭り（7日）
5月	◎平内クロスカントリー大会（3日） ◎BBQ体験（11日） ◎菜の花マラソン（19日） ◎浅虫水族館見学（25日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
6月	◎めぐる文様の見学（8日） ◎ピクニック（22日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
7月	◎地引網体験（13日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放（20日）
8月	◎エヴァンゲリオン展見学（3日） ◎大運動会（17日） ◎県障害者スポーツ大会（25日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎だいすき海岸夜間巡視（1日）
9月	◎AWボウリング大会（8日） ◎秋のBBQ体験（14日） ◎青森大恐竜展2019（21日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
10月	◎浅虫水族館見学（5日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎塩竈神社秋祭り（6日）
11月	◎メイプルマラソン（2日） ◎大収穫祭（9日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎地域住民との意見交換会（9日）
12月	◎ボッチャ体験（7日） ◎利用者忘年会（14日） ◎年末大掃除（21日）	
1月	◎AWボウリング大会（11日） ◎お好み焼き体験（18日） ◎バスケットボール大会（25日）	◎茂浦町内会総会（17日） ◎茂浦青年団権現舞訪問（17日）
2月	◎映画鑑賞「君の名は」（8日） ◎フットサル大会（15日） ◎焼きそば体験（22日）	
3月	◎映画鑑賞「ファインディング・ドリー」（7日） ◎各班作業及び歓送迎会（20日）	

(6) 送迎体制

コース名	行き先
平内町（野辺地）	小湊、清水川、野辺地
平内町（小豆沢）	小湊、小豆沢、障害者総合福祉センターなつどまり
青森市内（東方面）	小柳、戸山、諏訪沢
青森市内（山通り）	観光通り、筒井、戸山
青森市内（浜通り）	青森駅、浪打、八重田

(7) ボランティアの受入

令和元年度は実績なし

(8) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員（4人）と面談する機会を設けたほか、随時相談を受ける体制を整備した。なお、実施については虐待防止対応規程と連動し対応した。

(件)

区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

## (9) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行し、また、感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

新型コロナウイルス蔓延防止対策として、厚生労働省の通知に基づき、毎朝自宅において検温し、発熱していないことを確認してから送迎車両に乗ることを徹底した。事業所では外部の訪問者は玄関までとし、事業所内はすべて職員が中継して対応した。

## (10) 安全管理・防災対策

年2回（7月30日、1月20日）避難及び消火訓練を実施したほか、不審者対応訓練を実施した、利用者の安全確保に努めた。また、10月23日、社会貢献学会青森支部の協力により、災害備蓄食を利用者本人が実際に準備して喫食する訓練を実施した。

## (11) 所内会議等

会議名	回 数
質の向上推進会議	毎月1回
給食会議	毎月1回
事業所会議	毎月1回

## (12) 職員研修関係

事業所内での勉強会や法人内他部署での実地研修をはじめ、県内外で実施する各種研修等に職員を派遣した。

また、支援技術や生産技術の向上を図るための専門的な研修へも積極的に派遣した。

## (13) 広報関係

- ① パンフレット・事業概要作成配布
- ② 広報紙「でんでん」年3回発行配布
- ③ ホームページ開設
- ④ 物販活動（米：お米キャラクター「茂米しげべい」）

イベント名	会 場	開催日
農福連携マルシェ 2019	イオン青森	令和元年11月3日

- ⑤ 見学者の積極的な受入  
就活者、養護学校教諭・生徒

## (14) 放課後子ども教室（平内町からの受託事業）の運営状況

- ① 営 業 日 毎週月～金曜日
- ② 営 業 時 間 15:00～18:00（但し、小学校長期休業期間は9:00～17:00）
- ③ 利 用 契 約 者 34人
- ④ 協働活動支援員 6人
- ⑤ 協働活動推進員 1人

【本年度の実績】

※上段：当年度      下段：前年度

区 分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
稼働日数 (A)	19	19	19	22	18	18	21	19	20	19	17	21	232
	19	21	20	21	19	17	21	21	19	18	18	20	234
延利用者数 (B)	177	132	122	227	197	82	101	86	130	107	53	158	1,572
	185	172	159	230	234	155	199	196	209	156	114	154	2,163
1日当たりの 平均利用者数 (B÷A)	9	7	6	10	11	5	5	5	7	6	3	8	7
	10	8	8	11	12	9	9	9	11	9	6	8	9

## 第9 特別養護老人ホームすこやか苑

### 1 概況

すこやか苑の運営にあたっては当事業団の理念に基づき、すこやか苑の「基本理念」及び「基本方針」を定め、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者の能力に応じ自律した日常生活を営むことができるよう支援した。

すこやか苑では、地域とのつながりを重視し、苑の各行事や研修等にもボランティアを招くほか、苑の地域防災協力隊に地域住民の方々に参加していただくなど、地域との交流を積極的に行った。また、災害時の対策として、地域住民の他同敷地内にある「養護老人ホーム安生園」との協力体制を組織し、入居者の安全確保を図った。

令和元年度は最大5人の欠員が出るなど、体制がなかなか整わず運営面に支障をきたした。人材の確保においては、ハローワークはもとより、近隣町会へのチラシの配布、回覧板等でも募集を行い、12月によりやく欠員が解消される状況であった。

人材確保は大きな課題であるが、今いる職員が安心して働けるような仕組み、エルダー制度や面談等を通して風通しの良い、職員が定着できるような職場の構築が課題となっている。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実（生きがい活動支援の強化）

「生きがい活動の支援」を重点におき、24時間シートを活用しながら個々の望む日常生活の実現に向けた施設サービスを計画し取組みを行った。活動内容としては、例年行われている「夏祭り」「敬老会」「アニマルセラピー」等のほかに、「書道クラブ」「創作クラブ」のクラブ活動や季節に合わせた外出計画など、生活に変化と楽しみを持たせられるような支援を行った。また、地域ボランティアとの関係づくりを進め、苑の行事に参加していただくほか、新たにシニアカレッジの方の歌や踊りを披露していただくなど交流を深めた。

ユニットケア推進委員会を定期的に開催し（6回）、24時間シートの活用などの話し合いを行い、個別支援の強化を図った。

#### (2) 看取り介護の体制整備（令和元年度後期実施）

令和元年度後期の実施に向け、看取り委員会を中心に検討を重ね、看取りを実施している施設を見学し意見交換を行った。その中で、24時間連絡・対応可能な医師の配置と連携体制、看取り期の応援体制の構築、医務・介護職員の欠員等により、当年度内の看取り介護の実施は困難と判断し、一旦は次年度以降の実施を検討し見直すこととした。しかし、3月の理事会において監事よりご指摘をいただき、また、看取り介護を実施しないことによって、入居者の獲得や利用率など運営面において厳しい状況にあることから、経営改善の観点からも看取り介護について令和2年度早期に実施に向け準備することとした。

#### (3) 職員の人材確保と定着

最大5人の職員の欠員が出るなどなかなか施設の体制が整わなかった。7月から12月にかけて新採用職員（正職員1人・臨時職員1人・看護師1人・非常勤職員2人）が採用されたと同時に、法人内職員2人の転入があった。5月以降は離職する職員もなく、徐々に体制は整った。すこやか苑では、新任職員や転入職員に対して、仕事に早く慣れ、少しでも不安感を解消し、職員の定着につながるよう、法人内研修や苑の内部研



修など新任・採用職員に対する研修の充実を図った。次年度に向けても、より安心して業務に就けるよう、研修内容について検討していく必要がある。

#### (4) 利用者の確保と経営改善

地域密着型では、平均介護度 4.2、平均利用者数 27.2 人の維持を目標に掲げたが、結果として平均介護度 4.2、平均利用者数が 23.9 人とどまった。

また、短期入所では平均介護度 2.65、平均利用者数は 8.66 人を目標に対し、平均介護度 3.2、平均利用者数 6.53 人という結果となった。

地域密着型においては、高齢化が進んだことに伴い身体状況の悪化による入院者の増加・入院の長期化に伴う退所者の増加が顕著となった。また、職員の欠員で新規入居者の受入れ態勢が整わなかったことや看取り介護の体制整備ができなかったことで新規入居者の受入れる範囲が狭まり、平均利用者数が伸び悩む結果となった。

短期入所においても、これまで利用していた方が加齢とともに在宅での生活が難しくなったことで、他の施設に移行するケースが多くなったこと、新規利用者の獲得が少なかったことで、利用率の低下に繋がった。

### 3 職員の状況

職名	施設長	医師	生活支援課長 (生活相談員)	看護職員	介護職員	介護支援 専門員
人数	1	1 (非常勤)	1	2	22 【23】※1	1
職名	栄養士	機能訓練 指導員	事務員	専任当直員		計
人数	1	1	1	3		32

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。

※1・・・管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【23】に含む。

### 4 入退所状況

入所		短期入所・介護予防短期入所	
定員	29人	定員	10人
令和元年度内延入所者数	33人	令和元年度内延利用者数	47人
令和元年度内退所者数	11人	令和元年度内延利用件数	446件
令和元年度末現在の入所者数	22人		

### 5 事業概要

#### (1) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

##### ① 概況

ユニットケアの理念に基づいた個別支援に重点を置き、入居前と入居後の生活が連続したものになるよう、利用者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しながら、「生きがい活動支援」の充実を図った。

新入居者は7人（男性1人、女性6人）、退居者11人（男性2人、女性9人）という状況であった。平成26年の開所時84.5歳だった平均年齢は、令和元年度末では91.3歳となり、それに伴い介護度も3.9から4.2と高くなっており、高齢化、重度化に対応した組織作りが急務となっている。また、運営面において、利用者の獲得、平均利用率の向上が大きな課題となっている。令和2年度より看取り介護を実

施することで、これまで入居が難しいと判断されていた介護度の高い入居者を積極的に受け入れていくなど利用者の獲得を進めていく必要がある。

② 定員

29名（10名×2ユニット、9名×1ユニット）

(2) 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

① 概況

居宅の要介護者等に、利用者の自律生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるユニットケアを提供するとともに、その家族の身体的、精神的負担を軽減できるようサービスを提供した。

短期入所において、開所当初 78.7 歳だった利用者の平均年齢は令和元年度末で 91.1 歳、それに伴い介護度も 2.3 から 3.3 と高くなっている。

短期入所においても稼働率の向上が課題となっており、潜在する長期利用者の獲得を進めていく必要がある。

② 定員

10名（10名×1ユニット）

※上記他、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

6 事業の実施状況

(1) 年間行事

名称	実施時期等	参加者数	備考
花見ドライブ	4/22～24	22人	桜川まで桜見学を兼ねてドライブ
日帰り遠足	5/8、9、16、 22、24 9/12、13、17、 26、27	27人	合浦公園や平和公園のお花見学を兼ねたドライブ その他、クルーズ船やポニーの見学
買い物ツアー	6/13、19、20	10人	合浦公園やラ・セラ東ショッピングセンターにて買い物
すこやかカフェ	7/7、11/3	50人	ユニットリーダー主催によるカフェでケーキやお茶を提供
アニマルセラピー体験会	7/31	30人	アニマルセラピー協会による動物との触れ合い
ねぶた観覧	8/2	2人	青森市より招待されたねぶた祭り観覧へ参加
夏祭り	8/18	29人	夏祭りで、浜館ねぶた同好会がねぶた運行し観覧
敬老会	9/11	26人	明の星幼稚園園児の訪問。合唱とお遊戯披露。施設より入居者に記念品贈呈
明の星幼稚園 レクリエーション	11/27	26人	幼稚園児による歌等の披露、入居者との触れ合い
新年会	1/15	25人	シニアカレッジによる歌や踊りを披露
家族連絡会	3/7	0人	コロナウィルスのため、中止

ユニット内行事：母の日会、父の日会、七夕会、おやつ作り、スイカ割り、ハローウィンパーティー、クリスマス会、節分会、ひな祭り等を各ユニットで開催。ほか、年2回大掃除実施

(2) クラブ活動

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
書道クラブ	月 1 回	各回 約 15 人	4/17、5/22、6/5、7/17、8/21 9/25、10/23、11/20、12/18、 1/29、2/19、3/18
創作クラブ	年 2 回	約 20 人	8/7、2/26

(3) 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状態 の観察等
体重測定	毎 月	全利用者	
配置医診察	毎週木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査 や通院等の指示等
通院・往診	随 時	通院が必 要な利用 者	(通院) 泌尿器科 92 人、内科 13 人 整形外科 4 人、救命救急 7 人 精神科 1 人、皮膚科 1 人 神経内科 4 人、リウマチ科 3 人 (往診) 歯科 25 人 ※延人数、短期入所利用者除く
口腔機能維持管理指導	月 2 回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言 指導
機能訓練	週 2 回程度	全利用者	機能訓練計画書による機能訓練 ※短期入所利用者除く
訪問理美容	第一・第三 水曜日ほか	124 人 ※延人数	4月 12 人、5月 10 人、6月 12 人、7月 11 人、8月 16 人 9月 10 人、10月 11 人 11月 11 人、12月 12 人 1月 9 人、2月 10 人、3月 0 人

(4) ボランティアの受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
書道クラブ補助	12 回	計 20 人	地域住民 青森県立保健大学助教授
花見ドライブ付添	4/22	1 人	地域住民
夏祭り補助	8/18	1 人	家族
上記ほかユニット内行事補助、洗濯畳みや古布の裁断（清拭布作り）、花壇の整備など参加あり			

(5) 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（夜間火災想定）	5/29	50 人	職員 26 人、利用者 24 人
防災訓練（夜間火災想定）	10/19	53 人	職員 21 人、利用者 21 人 地域防災協力隊 11 人

(6) 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
新任職員研修会	4/17、6/3、 7/1、10/2、 12/2	計 10 人	老人施設としての、基本的知識を高める
感染症対策研修	5/15、10/30	計 15 人	食中毒や感染症予防策について 嘔吐時処理手順の確認
排泄介助（オムツ）研修	5/26、11/14	計 15 人	業者の営業担当より、排泄概論、オムツの当て方について指導
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	6/26	10 人	高齢者虐待の定義、身体拘束廃止に向けて、事例検討など
高齢者の疾病理解研修	7/24	10 人	外部講師（保健大学教授）より、高齢者の疾病に理解など
口腔ケアに関する研修	8/28、2/12	計 31 人	外部講師（歯科衛生士）より、高齢者の口腔ケアについて指導
事故防止に係る研修	9/25、3/25	計 17 人	服薬・食事介助のリスクマネジメントについて
伝達研修	11/27	15 人	外部研修に参加した職員の報告など
認知症研修	12/11	13 人	外部講師（保健大学教授）より、認知症に対する理解など
急変・緊急時の対応研修	1/15、30	計 31 人	急変・緊急時の対応の理解と記録の仕方など

(7) 会議・各種委員会等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
全体会議	年 11 回	各回 約 15 人	施設長からの指示事項ほか、協議 伝達など
ユニットリーダー会議	年 12 回	各回 6 人	ユニットリーダーを中心にユニット 運営について協議
ユニット会議	毎月 1 回 ※ユニット ごとに開催	各回 5 人	各ユニット内の運営やケアについて 協議
給食会議	年 12 回	各回 7 人	嗜好に合わせた献立、味付け、調理 方法（食形態）の検討
サービス担当者会議	入所 37 回 短期入所 33 回	各回 約 7 人	施設サービス計画や短期入所生活 介護計画書作成など介護方針の協 議決定
運営推進会議	年 5 回	各回 7 人	施設運営の現状報告、課題等へ対 する助言等

苦情解決協議会	年 3 回	各回 7 人	各種苦情解決へ向けての協議
苦情解決第三者委員相談日	年 11 回	延 12 人	第三者委員が輪番制で訪問し、苦情要望の聞き取り
リスクマネジメント委員会	年 12 回	各回 約 10 人	月ごとの事故分析・対策検討、虐待防止、身体拘束廃止へ向けた検討
褥瘡対策委員会	年 12 回	各回 5 人	褥瘡予防改善に向けた検討
感染症対策委員会	年 6 回	各回 約 10 人	食中毒・インフルエンザなど感染症対策について協議
ユニットケア推進委員会	年 6 回	各回 約 5 人	24 時間シートの活用などユニットケア推進を協議
看取りケア準備委員会	年 3 回	各回 約 6 人	看取りケアを開始するための手順等を協議、推進
広報委員会	年 3 回	各回 約 5 人	広報発行に係る編集など
防災委員会	年 2 回	5 人	防災マニュアルの整備や防災訓練の企画運営など
入所判定委員会	年 7 回	各回 約 7 人	入所候補者決定に係る協議など

(8) 実習の受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
令和元年度 社会福祉基礎実習 I	7/3	4 人	青森県立保健大学 1 年生の体験実習。施設見学と入居者とのレクリエーション
令和元年度 介護実習 II - B	6/1~20	1 人	青森明の星短期大学 2 年生の介護実習
義務教育教員免許志願者に対する介護等体験	8/19~23	2 人	義務教育免許を取得予定の大学生による体験実習。介護現場の見学や入居者との触れ合い
令和元年度「介護労働講習(実務者研修含む)」介護現場実習	10/15~17	3 人	介護職員実務者研修受講者へ介護現場の体験や入居者との触れ合い、介護過程の体験
令和元年度東奥学園高等学校福祉科介護実習	10/23~29	3 人	東奥学園高等学校 1 年生の介護実習
令和元年度 介護実習 II - A	11/18~12/7	1 人	青森明の星短期大学 1 年生の介護実習

## 第10 就労サポートセンターはくちょう

### 1 概況

開設から3年が経過し、当事業所の理念「地域社会と協調し、想像力豊かなサービスをととして働く喜びを分かち合います」に基づき、就労継続支援B型事業において実施できる、利用者の実情に合わせた必要な支援体制の充実及び事業基盤の安定化に努めた。

経営基盤の強化に向け、新規利用者の獲得及び利用率向上の取組みを行った。新規利用者については、独自の利用者負担金等軽減制度を活用した新卒者をはじめ、相談支援事業所との連携で年度内に3人と契約した。発達障害や精神障害者保健福祉手帳所持者、及び利用者の高齢化に対応するため、講師を招き障害特性等について所内研修を実施し、特性に応じた支援の充実を図った。欠席しがちな利用者については、スポーツ等運動の習慣化などによる健康増進、絵画等の創作活動推進等、余暇の充実に取組んだ結果、欠席日数が減少した。

生産活動においては、請負班における受注加工数が当初見込んでいた数量を下回ったことが影響し、就労支援事業収入全体が減少したが、材料費等経費節減及び新規請負業務受注に向け積極的に営業活動を行ったところ、除雪作業や新たな加工業務を受注することができ、目標額を上回る工賃を支給することができた。併せて、作業種目の増加に伴い、利用者の特性に応じた作業を提供する体制が整いつつある状況となった。

地域交流については、ふれあいスポーツ教室を2回開催し、サッカーとバスケットボールを通して町内小中学生と交流したほか、近隣保育園との交流や町内の各種イベントへの参加を実施した。

また、中・長期計画策定に向け、公正・中立な立場からの専門的・客観的な評価として、障害福祉サービス第三者評価を受審した。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 新規利用者の獲得等

新規利用者数は、目標値（2人獲得）を上回る3人の新規利用者を獲得、また、1日当たりの利用人員については、昨年実績を0.4人上回り17.5人となった。転居や長期入院での長期欠席があり、目標値の18人までは及ばない結果となった。

#### (2) 利用者工賃の向上

仕入を伴う請負業務が見込を下回ったが、外部における役務の提供を中心とする新規請負業務を7件獲得したことや植栽するカシスの販売等で、月額を支給工賃（時間給換算）は前年度比155円増の15,482円を支給することができた。

#### (3) 健康な身体づくりの推進

通所時のバイタルチェックの継続と、昼の休憩時間における余暇活動（卓球、キャッチボール、将棋、創作活動）を促したほか、保健師や健康運動指導士等による健康教室を開催し利用者の健康増進及び衛生観念の醸成を図った。

また、スポーツ活動に興味を持つことを目的に、プロスポーツ観戦の機会を提供した。

#### (4) 地域との関係強化

地元ボランティア団体が主催する清掃奉仕活動に参画したほか、近隣保育園との定期的な交流活動を実施、また、町内の小学生等を招いて開催したふれあいスポーツ教室（サッカー、バスケットボール）において地域との交流を図った。

また、土日開所日を利用して地域イベントに積極的に参加し、地域住民との交流を図った。

(5) ワークライフバランスの実現

業務の見直しを積極的に検証・改善し、業務の効率化を図った。時間外勤務の時間減及び年次有給休暇の取得日数が増加した。

(6) 第三者機関による評価の実施

令和元年6月5日から8月21日に、青森県社会福祉士会による障害福祉サービス第三者評価を受審した。管理者等のリーダーシップ、働きやすい環境づくり、地域との関係の確保について高い評価を得た一方、中長期計画の策定が課題として挙げられた。

### 3 職員の状況

職名	所長	副所長	支援員	事務員	調理員	運転員	合計
職員数	1	1	3	1	2	1	9

### 4 利用者の状況

区分	就労継続支援B型事業	備考
定員	20	
年度当初利用者数	21 (男15、女6)	前年度末利用者数 19
年度末利用者数	22 (男16、女6)	

平均年齢（令和元年度末）＝全体：41.6歳（男性：40.3歳、女性：38.2歳）

### 5 事業の実施状況

(1) 実施事業

就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況

(単位：円)

班名	金額	主な作業内容
清掃班	2,105,000	近隣福祉施設及び当事業所の一般清掃
請負班	3,299,441	漁業資材加工、タオル折り加工、除雪等
計	5,404,441	

(3) 工賃の支給状況

(単位：円)

区分	支給計画	支給実績	備考
1人当たり平均月額	15,400	15,482	平均月額は、時間給をベースに算出（総支給額÷総作業時間数×1日の活動時間×日数） ※工賃には一時金（年2回）を含む

(4) 一般就労に向けた取組

就労継続支援A型事業所に興味を持つ利用者が多かったことから、土日開所日を利用して事業所見学を企画したところであるが、新型コロナウイルス感染症拡散防止策の一環で訪問を取りやめた。本企画については、拡散が終息した後実施する。

(5) 作業能力の向上に向けた取組

一般清掃業務に従事する利用者及び職員を対象に、特別支援学校就職サポート隊あおもりに所属する清掃業者を招き研修会（計2回）を開催した。

(6) 利用者の特性に応じた支援等

精神障害や発達障害等における障害特性の理解促進のため、講師を事業所に招き所内研修を実施し、利用者の実態に合わせた支援方法について助言を得た。

事業所が設定する日課に馴染めない利用者や、生活面の支援が必要な利用者に対する支援体制を構築し、また、作業工程の細分化や新規受注等、各利用者が求める作業の提供に努力した。

(7) 余暇支援等

① 土日開所日（30回）

月	内 容
4	◎浅所海岸清掃奉仕活動(20日)※平内町白鳥を守る会主催事業 ◎八甲田丸見学(27日)
5	◎お花見会（野辺地町愛宕公園）(6日) ◎浅虫水族館(11日) ◎2019 菜の花フェスティバル（18日） ◎県立郷土館見学（25日）
6	◎七戸養護学校運動会応援(1日) ◎お買い物ツアー（青森市ガーラタウン）(15日)
7	◎ふれあいスポーツ教室（サッカー）(20日)
8	◎みんなでBBQ（海鮮）(3日) ◎ふれあいスポーツ教室（バスケットボール）(10日) ◎就サポさつき大運動会参加(17日) ◎県障害者スポーツ大会参加・応援(25日)
9	◎ボウリング大会参加(8日) ※アップルワーク主催事業 ◎ウォークラリー大会参戦(22日)※シニアフェスティバルスポーツイベント ◎青森ワッツ公式戦応援(29日)
10	◎浅所海岸清掃奉仕活動&BBQ(12日)※平内町白鳥を守る会主催事 ◎ラインメール青森公式戦応援（20日）
11	◎紅葉ツアー(2日) ◎青森県立美術館見学（16日）
12	◎お買い物ツアー（青森市イトーヨーカドー）(7日) ◎クリスマス大会(15日)※青森市手をつなぐ育成会主催事業 ◎利用者忘年会(22日)
1	◎ボウリング大会参加(11日)※アップルワーク主催事業 ◎利用者新年会(13日) ◎お買い物ツアー（青森市ガーラタウン）(18日) ◎鍋パーティー(25日)
2	◎ひらない冬まつり参加(8日) ◎ねぶたの家ワラッセ見学（22日） ※2/29 アグリの里おいらせ見学は新型コロナウイルス感染症防止のため中止
3	◎歓送迎会(28日) ※3/7 夜越山洋ラン祭り観覧は新型コロナウイルス感染症防止のため中止

② 事業所内での余暇支援

利用者からの要望に応え卓球用具、野球用具を充実させたほか、ボランティアを活用した将棋対局、絵画を主とした創作活動など余暇活動を支援した。

③ その他

共同生活援助事業所スワンハイムが主催する利用者1泊旅行の実施にあたり、在



宅利用者で参加希望する方の調整や旅行中の支援を行った。

(6) 食事（昼食）提供

希望者に対して、当事業所職員が調理する食事を提供した。なお、摂取カロリー制限を希望する方には希望するカロリーで食事を提供した。

また、毎月開催する給食会議において、利用者からの要望を参考に給食メニューを作成、なつどもり管理栄養士の監修を受け食事を提供した。

(7) 送迎体制

送迎車両3台体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
Aコース	東和、小湊
Bコース	内童子、間木
C、Dコース	清水川、狩場沢、東北町

(8) 実習生等の受入

区分	受入期間	人数	学校等
実習	6月17日～6月28日（10日間）	1	青森県立七戸養護学校
体験	7月23日	1	浅虫温泉病院
体験	9月18日	1	浅虫温泉病院
体験	10月17日	1	浅虫温泉病院
実習	11月11日～12月15日（5日間）	1	青森県立七戸養護学校

(9) 苦情解決事業及び虐待防止対応

毎月1回、第三者委員と面談する機会を設けたほか、随時相談を受けることができる体制であることを説明して利用を促した。なお、実施にあたっては、虐待防止対応規程と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	1	0	1
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	1	1	1

(10) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒剤による手指消毒の励行を行った。

また、感染症予防及び生活習慣病予防の一環として、健康運動指導士（法人内職員）平内町ふれあい出前講座を活用し、保健師や管理栄養士による健康教室を開催した。

(11) 安全管理・防災対策

年2回（7月31日、1月31日）避難及び消火訓練を実施したほか、湾内の津波を想定した避難訓練及び地域の避難場所の確認を実施し、非常時の対応に備えた。

高齢利用者の増加に伴い、玄関内の段差解消を行うなど事業所内外での事故防止に努めた。

作業時の粉塵対策として、空気清浄機の導入及び利用者へ作業中のマスク着用を促し定着を図った。

(12) 地域貢献・地域交流

- ① 平内町白鳥を守る会が主催する浅所海岸清掃奉仕活動（年2回）に利用者及び職員が参加した。
- ② ハクチョウのまち再生事業（平内町教育委員会）実行委員会にオブザーバーとして参画した。
- ③ 近隣保育園から招待を受け、園児との交流を図った。

- ④ 地域貢献の一環として、「利用者負担金等軽減制度」を設け、地域生活を希望する障害者の社会参加を促した。(令和元年度利用者2人)

(13) ボランティアの受入

受入人数	延べ日数	備考
2人	171日	作業支援補助、余暇活動の支援(将棋相手)

(14) 所内会議

会議名	回数	備考
就労・生産支援会議	毎月1回	利用者支援及び生産活動について協議
給食会議(利用者)	毎月1回	嗜好に合わせた献立、食生活における注意点の協議伝達
事業所会議	毎月1回	施設長からの指示事項ほか、協議伝達など
モニタリング調整会議	年2回	利用者の生活支援、作業支援について、個別支援計画を策定

(15) 職員研修関係

事業所運営に必要な外部研修に職員を参加させるとともに、職員の支援スキル向上、業務効率向上を目的に外部講師及び法人内職員を招き所内研修を実施し、職員の資質向上に努めた。

(16) 広報関係

事業所リーフレット及び広報紙(年3回発行)を作成し、関係機関及び団体等に配布した。また、ホームページにより事業所のPRに努めた。

(17) 助成事業への執行状況

助成先	内容	執行状況
青森県共同募金会 (社会福祉施設等整備支援助成事業)	ピンセッター	4月19日ピンセッターを1台導入し、3台体制(2台は借受)でアゲピン刺し作業8,529本受注し、総額255,870円の売り上げを計上した。